



316号
新宿発

この日本のゆくえは

首都圏の市民活動団体に関する調査 町村 敬志

護憲派の接着剤としての市民団体を 林 克明

アメとムチにつぶされた選挙
それでも岩国は負けない 上原 公子

新連載 台所の科学 1 電子レンジ 松崎 早苗

新連載 ちょっとひと息 貧しい人びと 桑原ちえ子

中越から あれから3か月。柏崎は—— 押見 操子

沖縄から またしても米兵、少女暴行 桑江テル子

連載 語りかけたいあなたへ 大里 知子

じわじわと

しま・ようこ

——じわじわと

明けはじめる淵が
夢から這い上がる

——じわじわと

ひかれて香り立つコーヒーが
紙面の見出しを漂う

——じわじわと

厳しい冬の陽が
部屋の奥へいざり出る

——じわじわと

早すぎる日暮れを急ぐ街が
今日のわたしを見限る

——じわじわと

不確かな明日の糧が
身を切る包丁に背を晒す

——じわじわと

矢からこぼれることばを束ねて
闇の声を紡ぐ

——じわじわと

最後になった曆に
目を閉じる

と沖繩と艦スージイ

漁船の密集する東京湾に乗り込んだイージス艦が、小さな漁船を真つ二つにした事件は、庶民の心も、真つ二つに切り裂いた。事件の詳細が伝わって、人びとの怒りは、日に日に激しくなっている。「そのけ、そのけ、イージス様のお通りだ」と言わんばかりの実態を知って、私は反射的に、米兵による沖繩の少女暴行事件を思い出した。

沖繩では、間髪を入れず、女たちが抗議集会を開いた。その報告を聞いて、涙があふれ出た。

沖繩は、アジア太平洋戦争で、その全土と、そこに住むすべての民衆を総動員して、日本本土を米軍の侵略から守りぬいたばかりに、戦後六十三年、今も米軍の蹂躪にさらされ続けている。

一方、沖繩の計り知れない犠牲の上に平和を享受してきたヤマトの住民は、「自衛隊」という、まやかしの名称の下に「軍隊」の存在を許容し、「恩を仇で返し続けて」きた。敗戦後の新憲法で、軍備の放棄をうたった日本であるにもかかわらず、現実には自国軍の存在も、他国軍の駐留も、共に容認してきた事実は、限りなく重い。

一九九五年の少女暴行事件に総決起した沖繩の激しい怒りと悲しみを、ヤマトと呼ばれる日本本土の住民たちが、骨身に沁みて受け止めていたら、米軍の沖繩駐留を、いのちを賭けて制止していただろう。そして、その〈米軍〉と本質的に変わらない〈自衛隊〉の存在を許し続けることも、なかっただろう。

アジアの人びとを犯し、殺した、つぐないとして、「二度と戦争をしない」ことを誓った日本国憲法を信じて、私たちは生きてきたが、その平和憲法は、自衛隊という軍隊を存在させることによって、実質的には空文化していることを、今回の二つの事件は、まざまざと示した。

二つの事件は、この根源的な状況を黙認しつづけてきたヤマトの人間の偽善を示すことによって、私たちが「いま、しなければならぬこと」に、厳しく迫っている。

(斎藤千代)



316号 この日本のゆくえは 目次

表紙 この日本のゆくえは

詩 —じわじわと しま・ようこ

巻頭言 イーリス艦と沖縄と 斎藤 千代 1

調査 首都圏の市民活動団体に関する調査—基礎集計と分析— 町村 敬志 4

提言 護憲派の接着剤としての市民団体を 林 克明 22

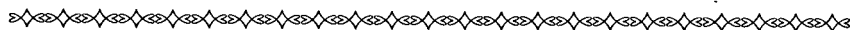
アピール 「自衛隊海外派兵恒久法」の制定を何としても止めよう

許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会 33

窓 アメとムチにつぶされた選挙——それでも岩国は負けない 上原 公子 34

詩 危機の日本海 堀場 清子 38

〈新連載〉 台所の科学力！ 第二話 電子レンジ 松崎 早苗 43



中越から	あれから三か月。柏崎は――	押見 操子	50
沖縄から	またしても米兵、少女暴行	桑江テル子	55
〈新連載〉	①②③④⑤⑥ ★翻訳★「貧しい人びと」	桑原ちえ子	60
TOPICS	冤罪につづる「警察不信」／チッソからの一時金給付を拒否して抵抗ほか……		69
会と催し	「市民の風」の新しい風？	牧 梶郎	74
	大盛会だった「九条の会」	杉山 次子	75
連載	語りかけたいあなたへ71 まなざし	大里 知子	76
読書室	「和田典子著作選集」 和田典子著作選集編集委員会編	斉藤 弘子	78
	「トヨタの闇」 利益2兆円の犠牲になる人々	山中登志子	80
	みなさまのお年賀状から		82
	二〇〇八年 私 私たちは――お年賀状のメッセージから		89
	あいらのあいら		110

首都圏の市民活動団体に関する調査

—基礎集計と分析—

2007年12月

研究代表者

町村敬志（一橋大学大学院社会学研究科教授）

社会運動団体、NPO・NGO、市民活動団体など、多様化する市民社会組織は、はたして今日、どのような全体状況にあり、また、どのような社会的布置を示しているのでしょうか。

一橋大学大学院、町村敬志教授の研究グループから二〇〇六年秋に送られてきた調査の、被調査団体の一つとして〈あごら〉も回答をお送りしたところ、その調査結果が送られてきました。

調査に協力した者へお贈りくださったそのご報告書は、非常に興味深いものでした。

〈あごら〉の会員は、ほとんど全員が、市民運動の担い手です。「たぶん、興味深く読んでくださるのでは……」と、町村先生に、雑誌『あごら』への掲載をお願いしましたところ、ご快諾くださいましたので、お目にかけます。

以下は、報告書の原文をそのまま転載したものです。

はじめに

この報告書は、首都圏1都3県の市民活動団体を対象に、2006年9～11月に実施した質問紙調査「首都圏の市民活動団体に関する調査」の、主な集計結果をまとめたものです。

調査にあたっては、対象となった3566団体のうち、931団体の皆さまにご協力いただきました。回収率は、26・1%でした。調査へのご協力に、改めてお礼を申し上げます。

日本の市民社会は今、どのような方向へ向かおうとしているのでしょうか。政府の限界、市場の限界が明らかになるなか、市民活動の力量と責任は確実に増す一方、管理や監視の強化、商業化など、市民活動団体は、さまざまな課題や困難に直面しています。本調査では、こうした市民活動の全体像を明らかにすることにより、市民社会の可能性と困難に関する議論に向けたしつかりとした基盤を用意することを目的として企画されました。

今後も引き続きデータ分析を深めてまいりますとともに、

さまざまな形で調査結果を社会へと還元していくことを計画しております。この調査が、日本の市民社会やそれに關する議論の発展に、いくらかでも寄与することができましたら、これにまさる喜びはありません。忌憚のないご批判、ご助言をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、本調査の実施にあたっては、日本学術振興会科学研究費（基盤研究（B））「市民エージェントの構想する新しい都市のかたち——グローバル化と新自由主義を越えて——」（平成17～20年度）を使用しました。

調査・報告書に関するお問い合わせ先

〒186-8601 東京都国立市中2-1-1

一橋大学大学院社会学研究科 町村研究室

〔ご注意〕 %は、原則として小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。また集計では無回答・不明を除くことがあり、その場合は合計が931になりません。

1 調査の方法

本調査は、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の1都3県で活動するNPOやNGO、社会運動団体、ボランティア団体などを、広く「市民活動団体」と捉え、その現状を明らかにするために行われました。

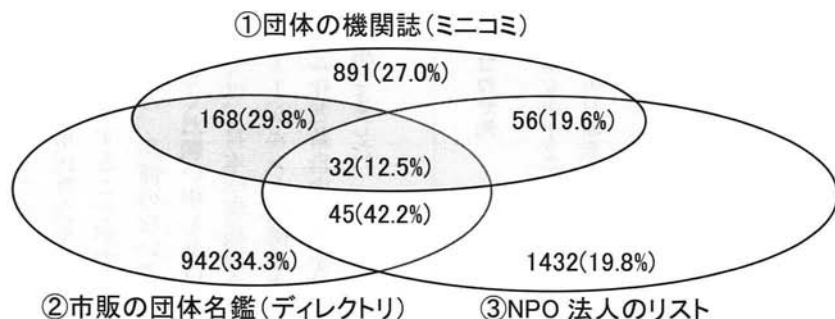
こうした団体を網羅するリストは存在しないことから、次の3つの情報ソースを用いて、回答をお願いする団体を決定しました。

①団体の機関誌（ミニコミ） 4都県に事務所をもつ団体が2000年以降に発行した機関誌から、「機関誌を発行した団体」と「機関誌内に団体名が掲載された団体」をすべて抜き出しました。機関誌は埼玉大学共生社会研究センターと、専門書店「模索舎」（東京都新宿区）で収集しました。

②市販の団体名鑑（ディレクトリ） 6つの市販の団体名鑑を用いて、4都県に事務所をもつ団体のうち、ミニコミ発行や政策提言、外部向け啓発活動等の活動を行なっている全団体を選びました。

③NPO法人のリスト 4都県庁のホームページでNPO法人一覧を閲覧し、「定款に記載された目的」の欄に次のキーワードを含む全団体を抽出しました。
キーワード… 権利、市民活動、市民参加、市民社会、情報発信、人権、政策、提言、都市。
以上の手続きにより決定した調査対象団体は計356団体です。
調査票は団体あてに郵送し、回収

図 1-1 情報ソース別にみた対象団体数（カッコ内の数字は回収率）



も郵送で行いました(督促1回実施)。有効回収数は931、有効回収率は26・1%、不達は185でした。

(図1-1は情報ソース別の回収数・回収率を示します。)

2 回答団体のプロフィール

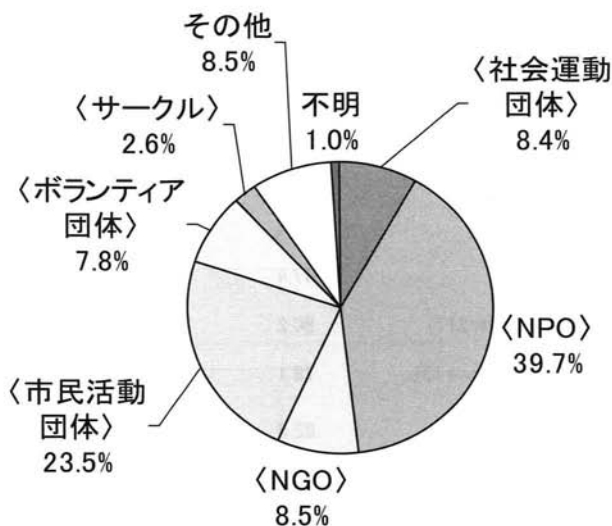
対象となった団体は、自らをどのような性格の団体・活動と定義しているのでしょうか。

「社会運動団体」「NPO」「NGO」「市民活動団体」「ボランティア団体」「サークル」「その他」から選んでもらいました。

「社会運動団体」なのか「ボランティア団体」なのか、これらを分かつ法制度上の定義は、認証NPOを除いて存在しません。そこで、それぞれの団体ご自身に、自らの自己定義をお尋ねしました(図2-1、以下これを「団体の性格(自己定義)」と呼び、〈NPO〉のように〈〉をつけて表記します)。

ここで注意が必要なのは、法人格をもつNPOであっても、自らを〈NPO〉とは定義せず〈社会運動団体〉〈NGO〉と定義している団体が存在することです(表2-1)。

図2-1 回答団体の内訳



団体の性格(自己定義)は、その団体の活動や方針に大きな影響を与えているため、以下ではおもに団体の性格ごとに分析を行います。ただし、法人格の有無など、制度上の位置づけと、団体の自己認識が一致しない場合があることは、常に念頭に置く必要があります。

調査に回答してくださった団体の構成を、まず所在地別に概観してみました。(図2-2)

所在地別では、東京都56・1%、神奈川県24・0%、千葉県8・6%、埼玉県10・9%で、全体に東京に集中しているといえます。

〈社会運動団体〉や〈NGO〉は、とくに東京集中が顕著であるのに対し、〈ボランティア団体〉や〈サークル〉は、近県にも所在する割合が高くなっています。

〔結成された時期〕

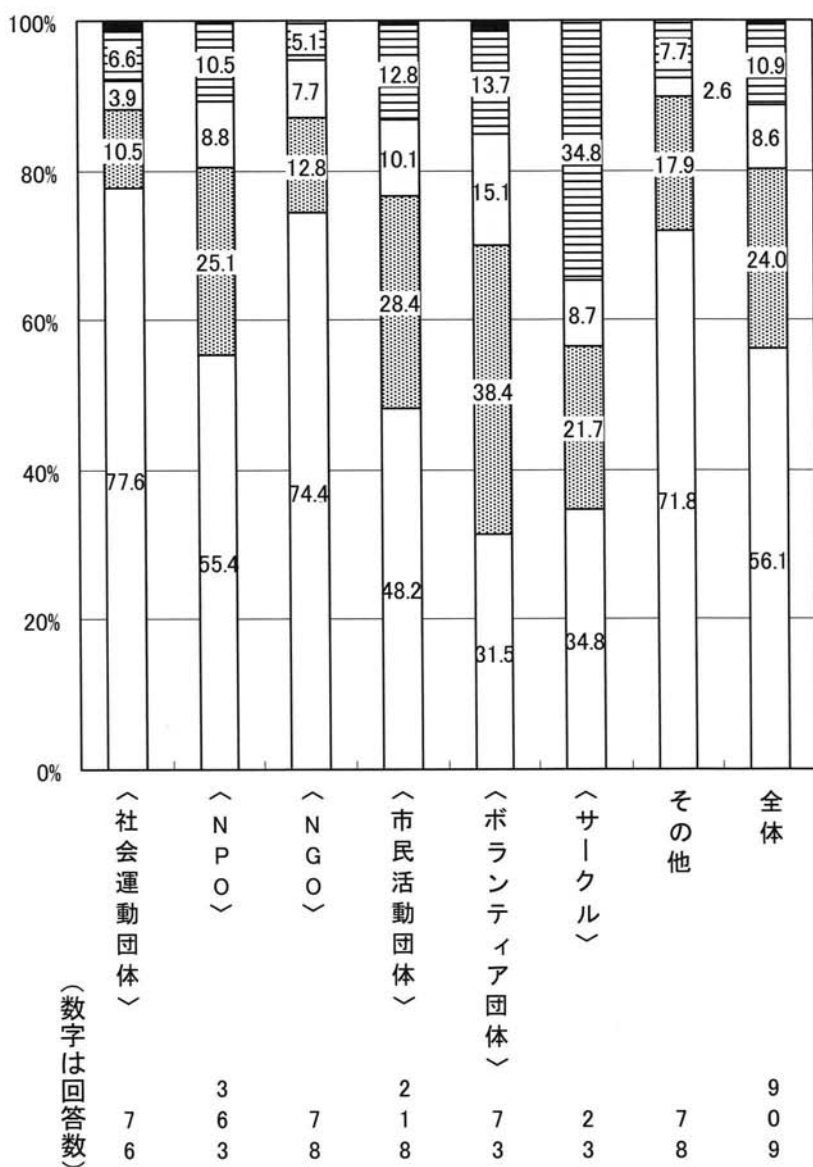
結成された時期をみると、1990年代以降に設立された団体が3分の2を占めています(図2-3)。

1990年代は、阪神淡路大震災の復興支援活動をはじめ、市民活動に注目が集まった時期です。

表2-1 団体の自己定義と法人格の有無(%)

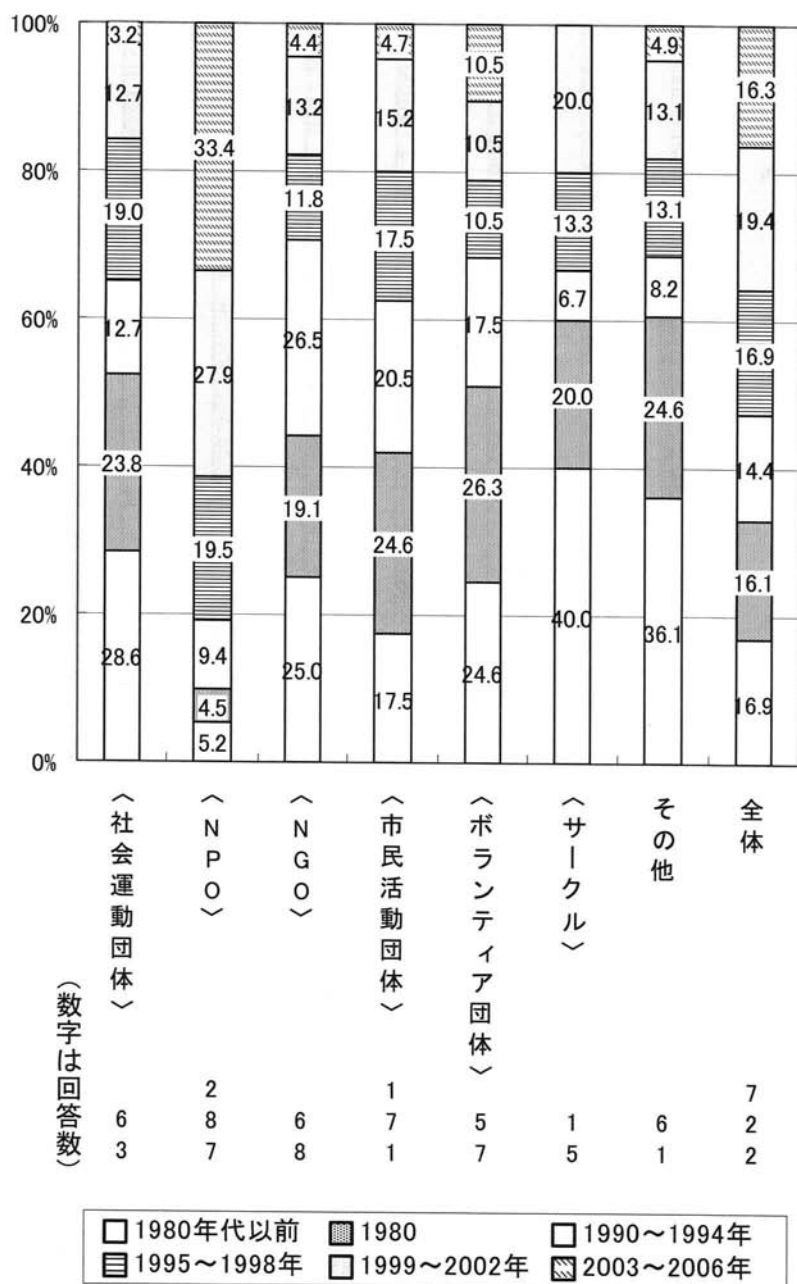
	法人格			
	任意団体	NPO法人	その他の法人	その他
自己定義 〈社会運動団体〉(n=76)	63.2	13.2	17.1	6.6
〈NPO〉(n=363)	4.4	94.2	1.1	0.3
〈NGO〉(n=78)	47.4	29.5	19.2	3.8
〈市民活動団体〉(n=217)	80.2	14.7	3.2	1.8
〈ボランティア団体〉(n=73)	78.1	16.4	4.1	1.4
〈サークル〉(n=23)	82.6	13.0	0.0	4.3
その他(n=78)	48.7	11.5	32.1	7.7
全体(N=908)	42.8	47.5	7.4	2.3

図2-2 所在地別・団体別の回答率



□ 東京都 ■ 神奈川県 □ 千葉県 ▨ 埼玉県 ■ その他

図2-3 結成時期



〈NPO〉の約半数は、1997年のNPO法成立以降に結成されています。近年に結成された団体ほど〈NPO〉の占める割合が高くなっているといえます。

3 団体の活動

①活動のテーマ

市民活動団体は、どのようなテーマの活動を行なっているのでしょうか。調査では、図3-1にあるように、16の活動分野から選んでもらいました（複数回答可）。

もっとも多かったのは「自治・市民活動支援・政治」（53・2％）で、これに「環境問題」（46・9％）、「福祉・保健・医療」（45・5％）、「教育」（38・4％）、「まちづくり」（31・1％）が続きます。

16の活動分野を、さらに84項目に分けて尋ねたところ（複数回答可）、もっとも多かったのは、「自然環境保護、緑化」（35・5％）で、続いて「市民団体間の連携（ネットワークキング）」（33・8％）、「市民活動への情報・専門知識の提供」（31・2％）でした。

〈社会運動団体〉は、「自治・市民活動支援」のほかに「人権擁護」「平和・戦争」「職業・労働・雇用」をテーマとしている割合が他に比べて高い傾向にあります。

〈NPO〉では、「福祉・保健・医療」「地域活性化」の割合が高くなっています。

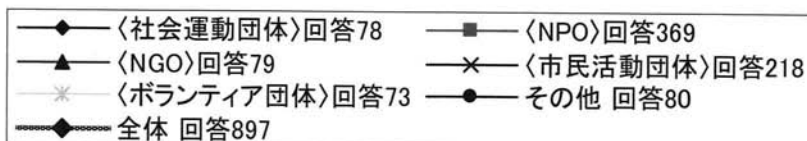
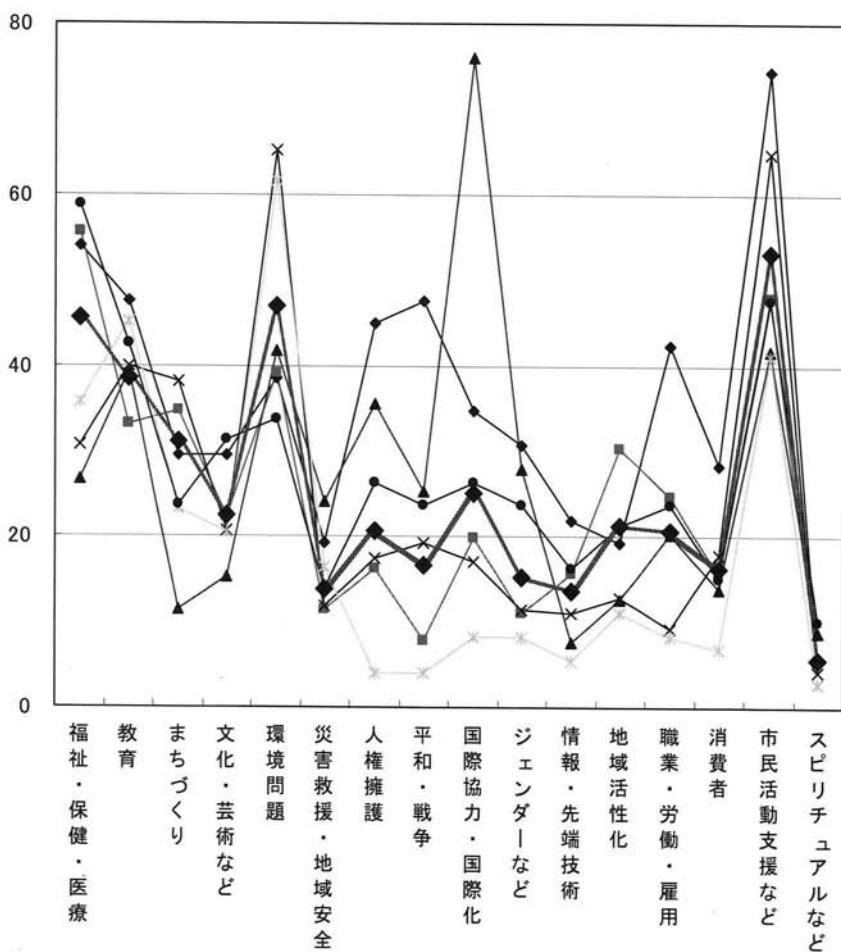
〈NGO〉は、「国際協力・国際化」が際立って多いほか、「人権擁護」も他に比べて高い割合を占めています。

〈市民活動団体〉は、「環境問題」「自治・市民活動支援・政治」の比率が高く、「ボランティア団体」も、「環境問題」の割合が大きくなっています。〈サークル〉は、「文化・芸術・スポーツ」の比重が大きくなっています。

以上をまとめると、〈NPO〉は福祉や地域問題を中心に活動しているものが多く、〈市民活動団体〉（ボランティア団体）は環境問題を、〈社会運動団体〉は平和・戦争や労働問題を、〈NGO〉は国際協力をテーマに活動しているものが多いといえます。

〈NPO〉が市民サービスを中心に広範な活動を行う一方で、〈社会運動団体〉や〈市民活動団体〉（ボランティア団体）が、〈NPO〉だけではカバーしきれない領域の活動に取り組んでおり、市民社会における補完や協働の様子がうかがえます。

図3-1 活動のテーマ(複数回答可、%)



②活動の手段

次に実際の活動をみてみましょう(図3-2)。

定例会や理事会は大半の団体が行なっており、ニューズレターや機関誌紙による情報の共有も、基本的な活動とみられます。

対外的なアピールや啓発活動では、学習会やシンポジウムを7割強の団体が行なっています。

資料収集や情報提供も過半数の団体が行なっていますし、ネット上での情報発信も盛んです。

より直接的に社会に働きかける行動は、これらに比べると、行なっている団体の割合は下がりますが、それでも集会は半数の団体が行なっており、チラシやポスターによる宣伝活動も盛んです。

物品販売や有料の研修会の開催、講師の派遣といった事業的な活動は、2〜3割の団体が「行なっている」としています。

これら社会に向けての活動は〈社会運動団体〉がもっとも盛んで、これに〈市民活動団体〉〈NGO〉〈NPO〉が続きます。とくに〈社会運動団体〉は、他に比べて直接行動を積極的に行なっています。

4 団体の運営

①スタッフと会員

団体は、どのように運営や活動を行なっているのでしょうか。

まず「人」にかかわる面をみてみましょう。

9割の団体が、運営スタッフが「いる」と答えています(図4-1)。

運営スタッフの平均人数は全体で12・6人ですが、〈NGO〉は30・7人と多く、逆に〈サークル〉は6・2人と小規模で、大小の差があります。有給のスタッフは、〈NGO〉〈NPO〉〈社会運動団体〉の半数以上が「置いている」と答えているのに対し、〈ボランティア団体〉〈市民活動団体〉〈サークル〉で置いているのは1〜3割程度です。

個人会員数をみると、100人未満の団体が4割強を占めています(図4-2)。

団体の性格別にみると、〈NGO〉が多くの会員を擁しているのに対し、〈NPO〉は〈市民活動団体〉と比べても小規模です。

図3-2 対内的・対外的な活動の有無(%)

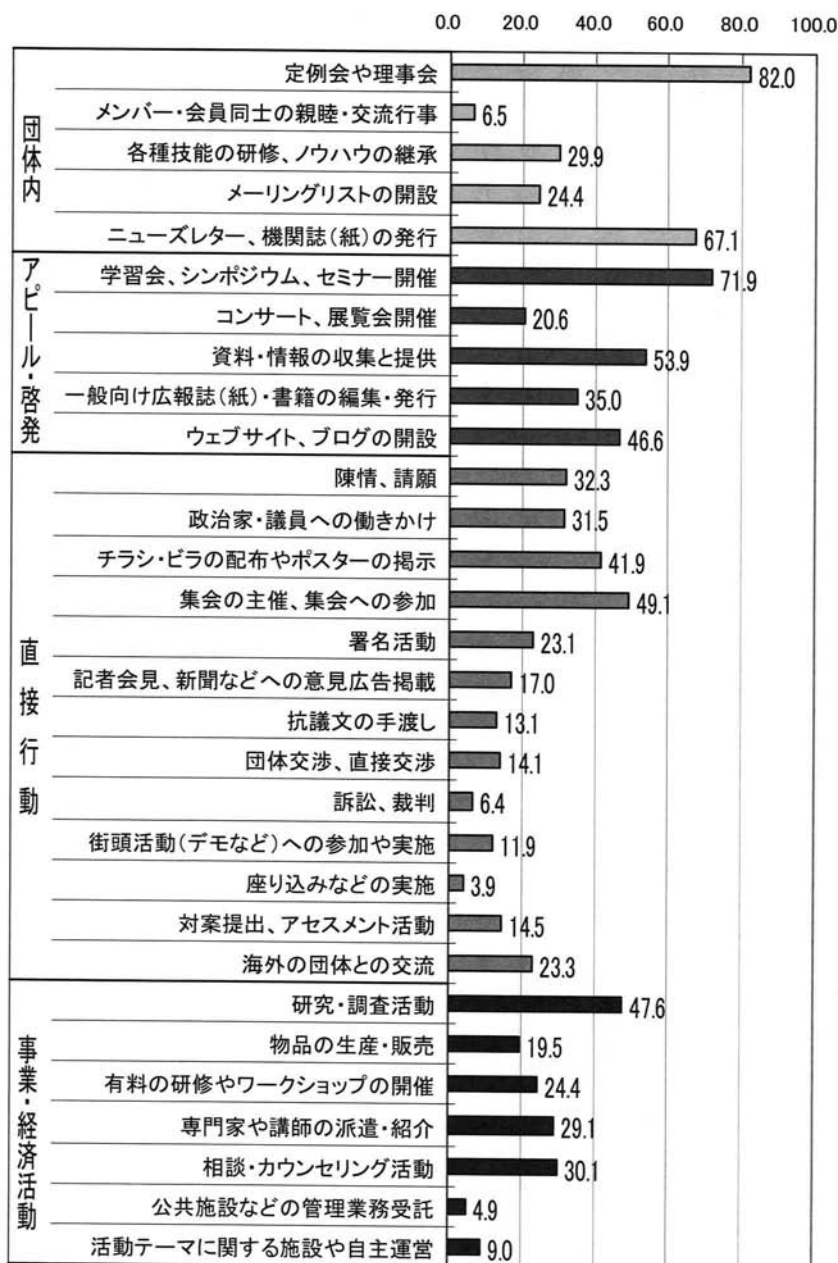
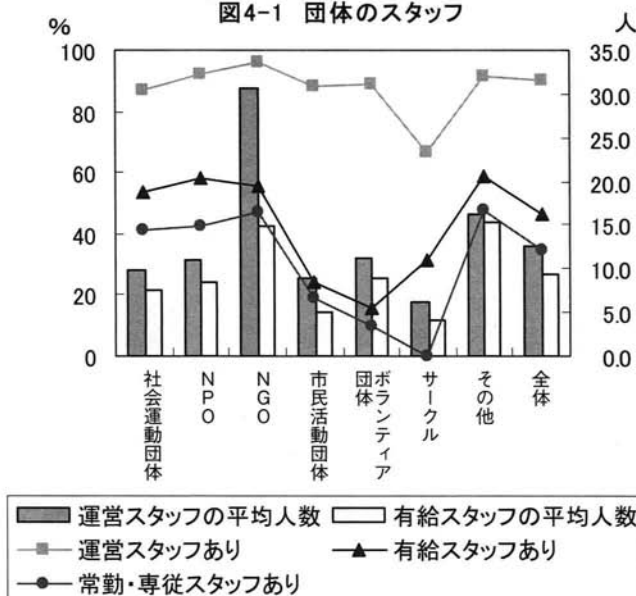


図4-1 団体のスタッフ



②運営資金

次に団体の「財布」にかかわる面を見てみましょう。
年間の予算規模は、全体の4分の1が50万円未満ですが、1千万円以上の団体も4分の1程度あり、大きさまざまです(図4-3)。

法人化している割合が高い〈NGO〉や〈NPO〉、活動範囲が広い〈社会運動団体〉は、規模が大きい傾向にあり、逆に〈市民運動団体〉〈ボランティア団体〉〈サークル〉は、概して小さい傾向にあります。

こうした運営資金はどのように調達されているのでしょうか(図4-4)。

〈社会運動団体〉〈市民活動団体〉〈サークル〉は、収入全体に占める会費の割合が高い傾向がみられます。

〈社会運動団体〉は、また〈NGO〉とともに、寄付金・カンパの割合が高くなっています。行政や外郭団体からの補助金が収入全体に占める割合は、〈ボランティア団体〉がもつとも高く、行政・外郭団体からの業務委託は〈NPO〉がもつとも高いという結果です。

図4-2 個人会員数

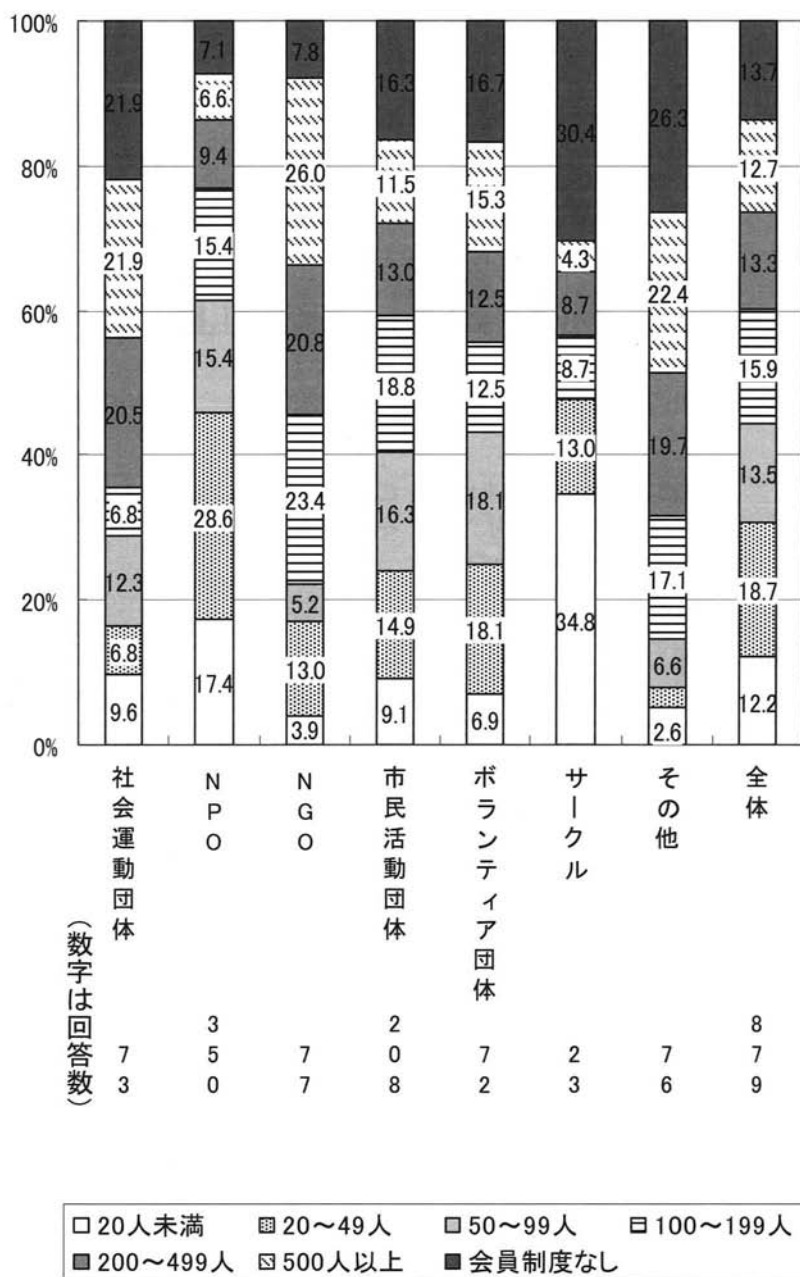
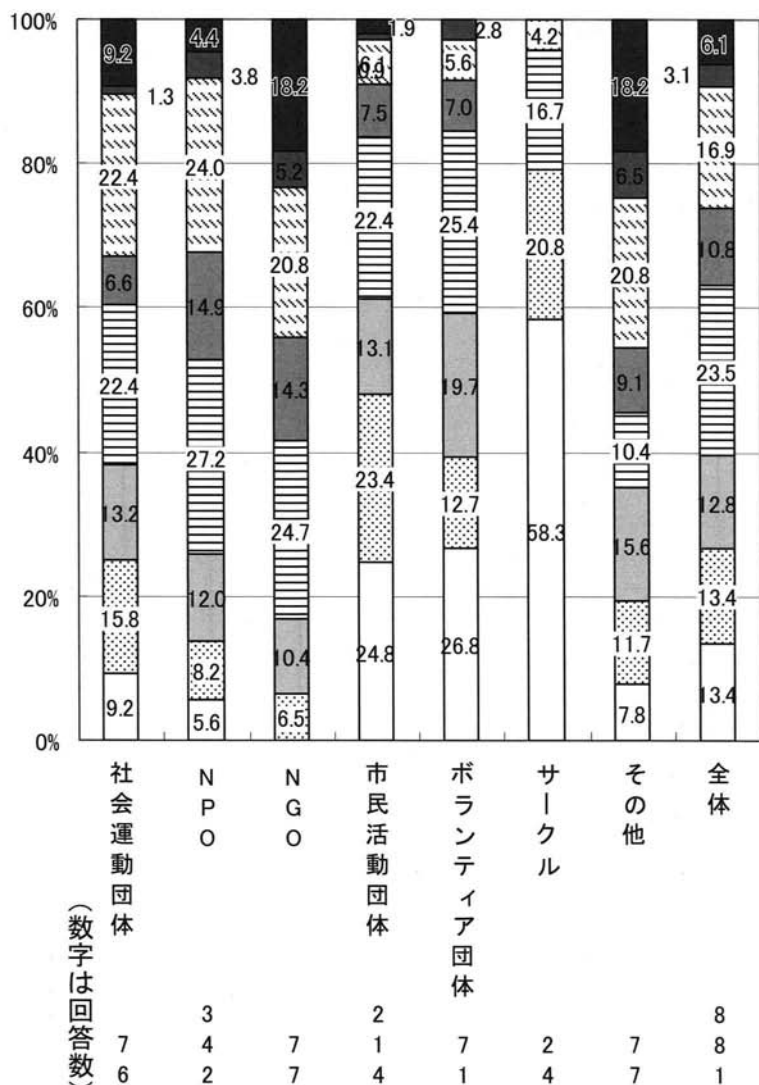
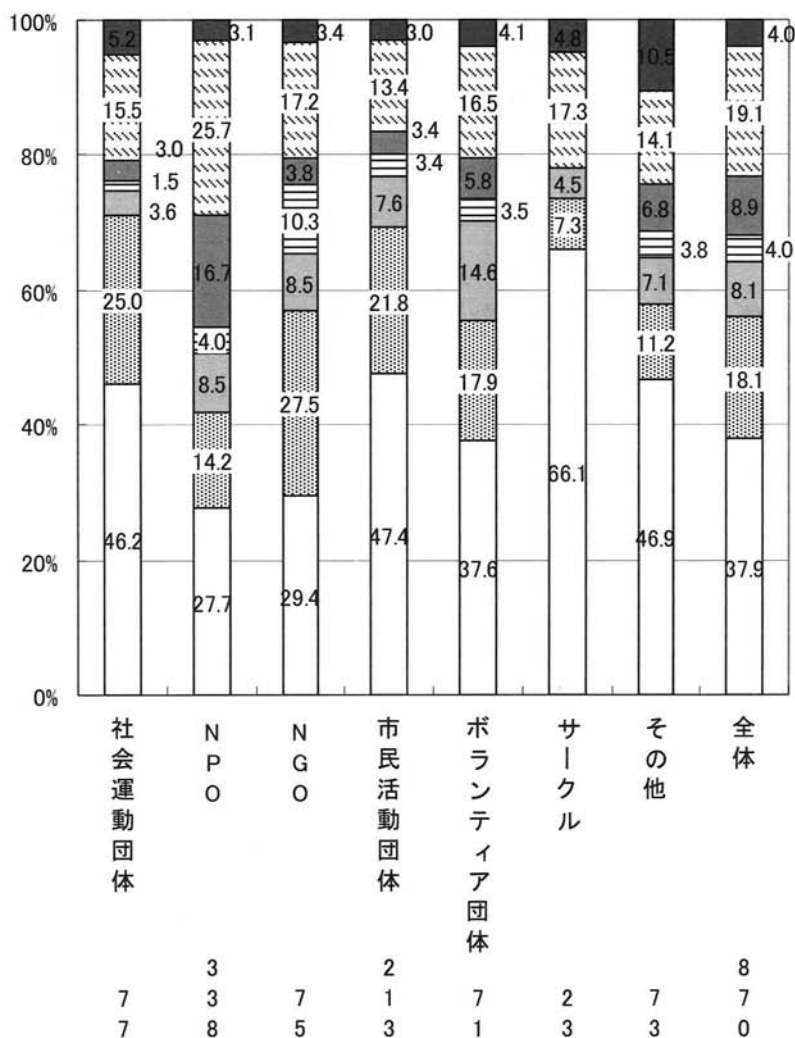


図4-3 年間予算規模



□ 10万円未満 ▨ 10～50万円 ▩ 50～100万円 ▤ 100～500万円
 ■ 500～1千万円 ▦ 1～5千万円 ■ 5千万～1億円 ■ 1億円以上

図4-4 収入の内訳(平均)



- | | |
|---------------|-------------|
| □ 会費 | ■ 寄付金・カンパ |
| ▨ 行政・外郭団体の補助金 | ▤ 企業・財団の補助金 |
| ▩ 業務委託 | ▧ その他の事業収入 |
| ■ その他 | |

③他の団体とのネットワーク

団体は、その活動の中で、他の団体と、どのようなネットワークを築いているのでしょうか。

「共同で事業・集会・シンポジウムなどを開催」

「他団体が開催する事業・集会・シンポジウムなどに参加・協力」

「他団体が主催する直接行動やデモに参加・協力」

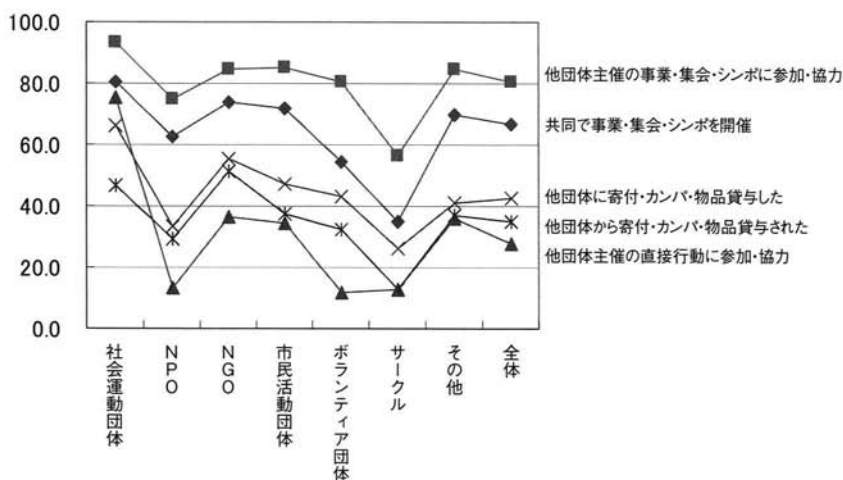
「他団体に寄付・カンパ・物品貸与などを行なった」

「他団体から寄付・カンパ・物品貸与などを受けた」

という5点について尋ねました。それぞれ「NPOやボランティア団体との関係」と「運動団体との関係」を分けて尋ねましたが、ここでは両者をあわせて見ていきます。（図4-5）。

全体に、事業や集会・シンポなどのイベントに関するつながりが、もつとも盛んです。「他団体のイベントに参加」は、80・6%が「経験あり」と答えています。次いで「経験あり」が多いのが「イベント共催」で、66・4%が「あり」としています。「資金・物品貸与」は42・5%、「資金・物品借り受け」は35・0%です。「直接行動やデモへの参加・協力」は、「あり」が35・0%でした。もつとも多く他団体と活動上の結びつきを有しているのは（社会運動団体）（NGO）で、〈市民活動団体〉がこれらに続いてい

図4-5 他の団体とのネットワーク(%)



ます。これに対して、〈NPO〉や〈ボランティア団体〉（サークル）は、他に比べると他団体とのつながりがありありません。

5 団体・活動の課題

最後に、団体が現在どのような課題を抱えているのかを見てみます。調査では「団体が抱えている課題・問題点で重要だと思われること」を15項目から選んでももらいました（複数回答可、図5-1）。

回答数が多かった上位5つは「運営スタッフの不足」「活動に対する支援者・参加者の数が増えない」「資金の不足」「運営スタッフの世代交代が進まない」「一般の関心が集まらない」です。

こうした課題・問題点の背後には、何らかの潜在的な要因があるように思われます。主成分分析という統計手法を用いて要因を探ったところ、「資金面の問題」（資金や事業収益、外部資金など）、「メンバーの達成感や満足度にかかわる問題」、「人手の問題」（運営スタッフ、支援者・参加者など）、「ほかの団体との関係にかかわる問題」という4つ

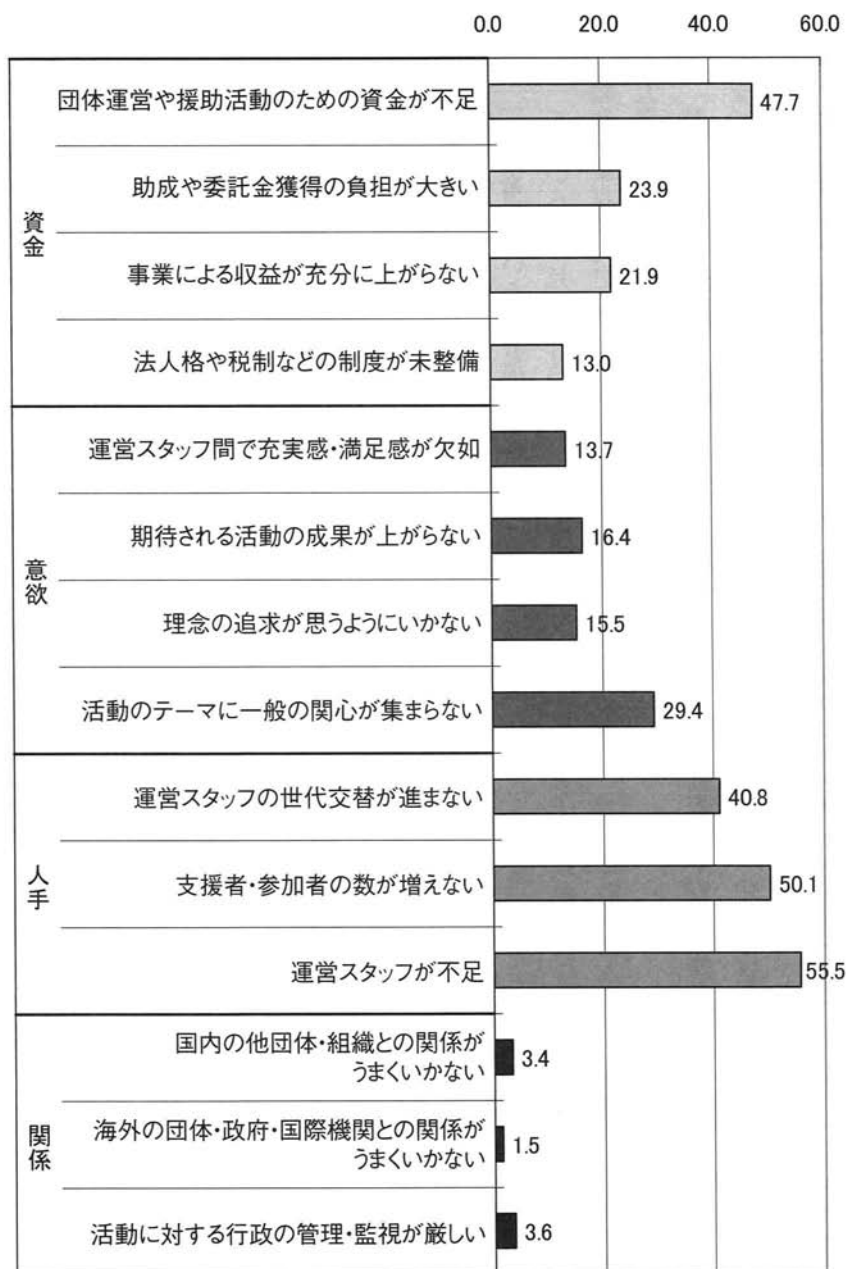
の要因が浮かび上がりました。団体の性格ごとにみると、「資金」問題は、とりわけ「NPO」「NGO」で、「人手」問題は、「市民活動団体」「ボランティア団体」で、課題・問題点として認識されているようです。

6 小 括

以上、調査結果の基礎分析を通じて、首都圏の市民活動団体の現状を概観してきました。社会運動やNPO、ボランティア団体など、さまざまな性格の団体・活動が、それぞれにとりくみを展開させており、想像以上に分厚い市民社会を重層的に形づくっていることが明らかになってきました。また、それぞれの団体は、さまざまな課題を抱えながらも、多様なテーマに、多様な方法でとりくんでおり、大きな能力と可能性をもっていることも、同時に明らかになってきました。

調査データの分析を今後さらに深めていくことで、日本の市民社会を支える市民活動の実態を、よりいっそう明らかにしてまいりたいと存じます。

図5-1 団体・活動の課題・問題点(%)



『あじら』315号では、「市民は政治を改革できるか」と題した座談会の内容を紹介した。参院選で野党が勝利したものの、結局は新テロ特措法が成立。民主党を巻き込んで、自衛隊の、海外派兵恒久化法案も浮上している。こうした厳しい情勢のなかで護憲派や平和勢力を結集しようという動きも始まっているが、今号では、座談会でも触れられた、今後の動きのひとつとして、「市民連帯」を紹介する。

護憲派の接着剤としての市民団体を

林 克明

「坂本竜馬という接着剤がいなければ薩長同盟もありえず、明治維新もなかったのではないか」

二〇〇八年一月二〇日、新しい市民団体「政治変革をめざす市民連帯」（略称「市民連帯」）の創立総会が東京都内で行われた。右の言葉は、開会挨拶の中で、同団体の世話人である碓井敏正・京都橘大学教授が語ったことだ。

私も同感だ。「市民連帯」は、接着剤なのである。何を接着するのか。簡単にいえば、護憲派各派をつなぐ接着剤だ。さらに、諸悪の根源たる小選挙区制を廃止し、中選挙区と比例代表の実現を目指すことだ。以上が「市民連帯」の二大目標である。

できたてホヤホヤの「市民連帯」のこれまでのいきさつや、今後について、語らせてもらいたい。

呼びかけ人の一人である私の個人的な思いが半分以上であることを、お断りしておく。

共謀罪反対で示した全野党抵抗の威力

二一世紀に入り小泉政権が誕生して以降、暴力資本主義（新自由主義）と、反テロ戦争という名の侵略戦争、人権を無視しても治安強化を優先する傾向が、全世界を覆っている。日本でも、国家主義・民族的排外主義・軍国主義的傾向は高まり、「平和と民主主義」などと口にしただけで小馬鹿にされるような時代になった。このような社会風潮のなかで、つぎからつぎへと改悪が強行されていた。

二〇〇六年春、私はなんとかしなければと深刻な想いだった。数かずの改悪のなかで見逃せないと思ったのは、政府・与党が「共謀罪」を新設しようとしていたことだ。相談もせず、目くばりもせず、語りもせず、何も実行もしていないのに、「権力が逮捕して投獄しようと思えば、いつでも可能な法律」——それが、共謀罪である。

中世ヨーロッパの魔女裁判をしのぐ発想であり、日本を破滅させた治安維持法と同様の威力を発揮する凶悪法案だ。これに反対するため、文筆業者がおもにあつまる「共謀罪に反対する表現者たちの会」に私は加わった。「共謀罪が成立したあと、どうなるかを伝えるための劇映画」にまで出演。これまで主体的に社会・政治運動をしたことのない私にとって、初めて真剣に取り組んだ運動だった。

このとき、衆議院で自民・公明は圧倒的多数を占め、参議院も多数派。強行採決の連続で、国会が機能しない事実上の独裁政権だった。しかも二〇〇五年の郵政選挙で約五〇パーセントの投票に支えられた自公政権によって、反対票を投じた約五〇パーセントの人びとをまったく無視した独裁政治が

まかり通っていた。

このような圧倒的に不利な状況にあつて、日本をファシズム国家に転落させる共謀罪が、明日にでも成立するのでは、という緊迫した状況が連日続いていた。

だが結果は、この原稿を書いている〇八年二月の今も、まだ成立していない。その理由は二つ。第一に、民主・共産・社民・国民新党など全野党が一致して反対したこと。奇跡的に共闘は崩れていない。第二には、こうした国会内の動きに外部の市民が応え、国会の内外の動きが一致したことだろう。いま思い返せば、共謀罪反対運動（とりわけ〇六年）における野党共闘と市民の連携を目の当たりにしたことが、現在の「市民連帯」に向けた強い思いにつながっている。

二〇〇七年参院選の教訓

事実上の独裁政権が勝ち、日本は、落ちるところまで落ちるしかないのか。それとも野党が勝って歯止めがかかるのか。これこそが〇七年七月二九日投開票の参議院選挙の争点だった。もし自民・公明が勝ったら、どこに亡命しようかと考えていた矢先、友人のミュージシャンZAKIが「9条ネット」の全国比例区から立候補すると知り、生まれて初めて選挙運動を手伝った。

選挙期間中は、「候補に投票しろ」というよりも反政府運動として選挙活動を捉え、安倍独裁政権の打倒、民衆の貧困化政策、市場原理主義批判を徹底的にやった。そして宣伝カーの上から次のように訴えたのである。

- ①一人区は民主党候補に投票を（共産・社民に入れてはいけない）。

②複数区は社民党と共産党に投票を（民主党に入れてはいけない）。

③比例は護憲派の共産・社民・9条ネットのどこか（民主党に入れてはいけない）。

この原則を実行すれば、政府自民党に空前の大打撃を与えることができるからだ。

「9条ネット」は、文字どおり日本国憲法第九条を護る勢力を糾合しようというグループである。したがって本稿でとりあげている「市民連帯」と共通点がある。現に選挙前に「9条ネット」は、共産党・社民党・新社会党に共同候補擁立を呼びかけていた。が、ついに実現できずに自身が立候補することになってしまった。護憲勢力を結びつける接着剤に徹することができなかったのだ。

結果として、共産党・社民党・9条ネットの護憲各派は敗北し、民主党の一人勝ちで選挙は幕を閉じた。9条ネットが選挙に出ることに対して、「また分裂させた」という批判も多い。自分で9条ネット候補ZAKIの選挙運動をしていて言うのもなんだが、その批判は全く正しい。ほんとうは責任をとって切腹すればいいのかもしれないが、そうはできない。過去の教訓を活かして「市民連帯」をなんとかして成功させ、私が生きているうちに、日本を文明国・先進国にしなければならぬからだ。

野党共闘の重み

民主党の参院選挙圧勝で安倍自民党の極右路線はブレーキがかかったが、これで安心できるのか。私の周囲にいる人びとは、ほっと胸をなでおろしていても、私は、これで済むはずがない、と疑念にかられていた。その疑念は、その後の民主・自民大連立構想や新テロ特措法成立にまつわる民主党の様子を見ていて、間違いではなかった。

で、「このまま、すんなり民主化の方向にいくことはないだろうな」と漠然とした不安を感じていたときに、ZAKIの選挙と一緒に手伝った〈母系社会研究会〉の石井孝夫さんからメールをもらった。「9条ネット関係者だけではなく、さまざまな候補の選挙を手伝った市民が集まり、今後どうしていか話し合おう」ということだった。これが〇七年九月。

集まったのは十数人だったが、「民主党勝利によって楽観はしていない」ことだけでは一致した。「とにかく野党共闘が必要だ」、「政治団体をつくって立候補するようなことはしない」というような意見も出された。

私がこのとき強く思ったのは、自分たちが政治グループをつくって立候補するのは反対で、「既存の政党あるいは複数の野党が推薦可能な共同候補の擁立」しかない、ということだった。そのためには「9条ネット」や、同じく接着剤を目指す「平和への結集」をめざす市民の風（通称「市民の風」と一緒に協力しなければと思った）。

何といつても、先に述べた共謀罪反対運動で見せた野党共闘、沖縄の参院選で見せた野党共闘の力は、はつきりしていた。中学生でも理解できることではないか。

その後、「市民連帯」という仮の名前をつけて呼びかけたのは、〇七年二月に入ってからだ。

小選挙区反対 & 既成政党も大切に

政党や大労組などだけによる政治や選挙はつまらない。一方、俗に言う「無党派市民」とか「市民派」という表現は、私個人としては嫌いである。無党派とか市民派と称する人の中には、政党を拒絶

するような人もいるが、過去のさまざまないきさつからわからなくもない。だが、結果は、はっきりしている。それでは成功しないだろう。別紙の「呼び掛け文」では「左派と労働者・市民が共同して」と書いてある。「左派」とあえて書いたのは、文字通りの左派政党である共産党・社民党・新社会党などの組織に政党を排除せず、政党と組織に属さない個人をつなごう、という意味合いもあるのだ（これは、あくまでも私個人の見解）。

ポイントは、どれだけ妥協できるかだろう。それこそ（戦闘的妥協）と肝に銘じないかぎり、成功は難しい。「共通する目的があるんだから、一緒にやろうぜ」と簡単に私は言ってしまう。我ながら、政治と運動に関して、まったくのド素人だなあ、と思う。

共通した目的をもつ政党（共産党・社民党・新社会党など）どうしと 市民をベタベタと接合し、なおかつ、良質の部分と自民党より悪い部分の両面をもつ民主党を監視し、民衆を裏切らないように育成すべきだ。子育てと一緒にある。

諸悪の根源 小選挙区エセ二大政党制

もうひとつは「小選挙区二大政党制に反対する」ことだ。これだけ国家主義化が進み、軍国化が進んだ大きな理由は、共産党と社民党が大幅に後退したからである。それには、小選挙区制度が大きく影響している。しかも、「二大政党制」は、たとえば五〇年くらい前のイギリス保守党と労働党のような「対立する二大政党」かといえそうではなく、日本で言われているのは、もともと同じものが二つに分かれている嘘っぱちの二大政党だ。

これでは永久に改革はできない。似かよった二大政治勢力しか選択できないとは、夢がない世界だと思いませんか。ソ連時代にロシアで実施していた選挙と基本的に変わりない。

日本の民主主義や自由（権力批判の自由・少数派の自由・言論表現の自由）を心配する大衆の、ほとんど全部に近い人が、「小選挙区二大政党制はひどい」と言う。それでは、小選挙区制に反対する運動、選挙法改正運動を大規模に展開しているのか。周りをみても何もない。

それなら、われわれがやろうじゃないか！それが市民連帯発足の心意気だ。

言うまでもないが、現在は、小選挙区制のもとで当選している議員がほとんどだから、議員自身は小選挙区制廃止には反対だろう。壁は高く厚い。しかし、昔は、どこの国でも議会は男だけが占めていたが、二二世紀の今は、女性参政権がほとんどの国で実現できている。かつて女性参政権運動を担ってきた人たちの苦勞を思えば、現代日本の選挙法改正は、比較的らくで実現可能なのではないだろうか。

創立総会当日から具体的行動開始

今年一月二〇日の創立総会が、あと一五分ほどで終わろうとしていたときのことだ。会員のひとりが岩国市長選に言及したので、私は「すでに選挙が始まっている八王子市長選（東京都）、二月に実施される岩国市長選（山口県）の支持を表明したらどうか。相手に断られても勝手に支持を表明し、具体的行動の第一歩としたい」と発言した。

この意見は、その場で支持され、さっそく行動を開始した。

八王子市長候補の高橋よしひろさんは、共産・社民・生活者ネットの支持を受けて立候補していた。

共産党と社民党が分裂せず応援している候補を応援することに、意義があった。また、米空母艦載機部隊の移転を拒否して政府から「いじめ」を受けて岩国市長を辞職した井原勝介氏を支持。さつそく創立総会翌日に「市民連帯」の世話人が二人の候補者に支持を伝え、受け入れられた。両候補には、わずかだが一万円のカンパを送り、東京の八王子市から、実際に〈市民連帯〉のメンバー計五人が現地に行つて選挙を手伝った。

〈市民連帯〉は、地方自治も重視している。もともとは保守系である岩国市の井原勝介氏を支持するのは、地方自治をまっとうしようとして闘っているからである。〈市民連帯〉は、地域的にも活動する。むしろ東京以外での活動がポイントになるかもしれない。すでに神奈川では〈市民連帯神奈川懇話会〉がスタート、近く千葉でも「市民連帯千葉懇話会」の設立が準備されている。

さらに、会員からは、年会費二千元を集め、隔月発行の会報『希望』を発行している。産まれたてはやはやの小グループだが、着々と行動を開始しているのだ。

夢を見る自由、計画する自由、行動する自由

私が持ち歩く黒革の手帳には、次のように計画が記入されている。当然ながら組織が決めたのではなく、私が勝手に作成した計画だ。

二〇〇八年 市民連帯会員一万人

二〇〇九年 市民連帯会員五万人 共同首長候補当選一〇人

二〇一〇年 市民連帯会員一〇万人 共同首長候補当選三〇人

二〇一一年 市民連帯会員一五万人 共同首長候補当選六〇人

二〇一二年 市民連帯会員二〇万人 小選挙区廃止法案提出。社民・共産・新社会・リベラル市民派

衆院一八〇人超 運動で選挙法改正。民主大分裂

二〇一三年 政権奪取 自民・公明ほとんど壊滅で再起不能

思想信条の自由があるように、夢をみる自由も計画をたてる自由もある。やはり、人生は、楽しいですね。
(了)

政治変革をめざす市民連帯 一五二一〇〇〇二 東京都目黒区目黒本町二一十一―二〇

ホームページ <http://www.siminrentai.com/>

郵便振替〇〇〇一五〇―〇七四一九二二

市民連帯の呼び掛け文

安倍晋三首相の突然の無責任辞任の後を受けて、福田康夫新政権が、昨年九月二七日に誕生した。福田政権は、「美しい国」の醜い幕切れによって、「改憲」を語ることもできず、「調整型」政治を唱えている。衆参ネジレ政局の下で、参議院選挙で大勝利した民主党は、対決姿勢を強め、衆議院の解散・総選挙による政権交代をめざしている。

全世界的に「新自由主義による社会の軍事化」、「格差(分断)と貧困の拡大」が激しく展開され、負担増が生活の窮迫に追い打ちをかけている。地球環境も不気味に劣化し、閉塞感が深まり、利潤を目的とする資本制生産が生み出す矛盾は、いつそう深化している。

昨年十一月に突発した「大連合」をめぐる茶番劇が示すように、仮に「政権交代」が実現したからといって、新自由主義による労働者・市民への災い——「格差社会」の拡大や社会の軍事化——がなくなくなるわけではない。労働法制も、年金・社会保障も、環境問題も、教育問題なども、どの課題についても、市民運動や労働運動による反撃こそが活路を切り開く。そして、選挙は、地方自治体でも国政でも、それらの闘いの結節環として重要な位置を占めている。だから、選挙において、左派と労働者・市民の共同の力を発揮することは、きわめて重要である。参院選挙で後退した、日本共産党と社民党は、この局面でどう闘うのか。

私たちは、「どのような政党や党派からも独立した市民の自立的組織」である。

同時に、私たちは、「左派の政党や党派・グループ相互の理解と信頼を創りだし、積年の不和と対立を克服しなくてはならない」と考える。活憲による市民自治の創造と合わせて、市民の声を軸に、その願いを国会で表現する政治家を生み出す接着剤が必要である。

そのために、私たちは、希望を創造する新しい質と方向性を明示する活動に踏み出すことを決意した。私たちの会への参加と協力を心から訴えます。

市民連帯の主要課題

- ・小選挙区制の廃止と中選挙区・比例代表制の実現をめざす。
- ・各種選挙での左派と労働者・市民の共同行動をめざす。
- ・改憲反対を明確にしている国会議員の動向を紹介する。
- ・各種選挙の情報（候補者の政治的立場と見解）の報道。

運営上の約束

- ・会員…この会が別掲の「よびかけ——私たちがめざすもの」を活動の趣旨としていることを承認し、年会費二〇〇〇円を支払う人は、会員になれる。
- ・呼びかけ人…別掲の「よびかけ——私たちがめざすもの」の趣旨に賛同し、初年度（二〇〇八年）に三〇〇〇円の分担金を支払う人は、呼びかけ人になれる。
- ・呼びかけ人会議…隔月に開く。
- ・世話人…呼びかけ人会議で、若干名の世話人を選出する。
- ・世話人会…適宜開いて、会の実務を担う。
- ・会員総会…年に一回、開催する。メールによる意見参加を保証する。
- ・会員が一五〇人を越えるようになったら、会則をはっきりと決める。
- ・会員は、その言動をこの会によって拘束されることはいっさいない。しかし、会として、あるいは会を代表して表現する場合には、「よびかけ」の趣旨を尊重しなくてはならない。

二〇〇八年一月二〇日

いつでもどこにでも自衛隊を派兵し戦争できる

「自衛隊海外派兵恒久法」の制定を何としても止めよう

政府・自民党は、いま、年内にも「自衛隊海外派兵恒久法」を制定しようと本格的に動き出しています。1月18日、福田首相は所信表明演説で、自衛隊海外派兵の「一般法」制定の方針を打ち出し、自民党は2月13日、派兵恒久法案を今国会に提出し、年内の成立をめざすことを確認しました。海外派兵恒久法とは、自衛隊をいつでもどこにでも派兵でき、米国とともに、場合によっては日本独自にでも戦闘を行うことができるようにするもので、憲法9条をまっこうから否定するものです。

政府・自民党は1991年の湾岸戦争以来、一貫して派兵恒久法制定を狙ってきました。それはまず、PKO協力法の強行成立とそれによる自衛隊の海外派兵、PKO協力法の改悪による武力行使の範囲の拡大の積み重ねから始まりました。しかし、憲法9条に違反するとの強い世論から、それには一定の制限を課すことを余儀なくされてきました。

それを突破したのが2001年のテロ特措法と2003年のイラク特措法でした。これらの法律により自衛隊は公然と戦場に派兵され、占領への参加や実戦への後方支援を行なってきました。「日本の参戦」を強く要求したのは米国でしたが、政府・自民党はそれをテコに、日本を「戦争ができる国」にするため積極的に参戦の道を選んできたのです。

しかし米国と政府・自民党は、それでも満足していません。特措法は時限立法であり、期限が切れたら国民や国会の反対を押し切っても延長を議決しなければならないからです。また、これら特措法は、「9条を守れ」という強い世論を前に、部分的な参戦にとどまっているからです。

2006年に自民党の機関がまとめた海外派兵恒久法案は、国連やその機関の要請だけでなく、「国連加盟国の要請」や、さらには日本独自の判断でも自衛隊を派兵し、現地で武力行使し、群集を武力弾圧することもできるなど、恐るべき内容になっています。派兵恒久法の制定を許せば憲法9条は破壊され、日本は名実ともに「戦争ができる国」になってしまいます。

武力で平和はつukれない——これはもはや世界中の共通の認識です。そして、それこそ憲法9条の輝かしい精神であり、世界で9条に対する評価が高まっている理由です。

憲法とりわけ9条を守り生かすために全国で行動をつづけている皆さん、「海外派兵恒久法」の制定を何としてもくいとめましょう。そのため、すぐにそれぞれの地域で海外派兵恒久法の危険性を伝え、反対する世論を大きくひろげましょう。

2008年2月17日 第11回 許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会

この共同アピールに賛同される方は、下記に、氏名、肩書きまたは所属団体、連絡先、電話、FAXをご連絡ください。

第1次締め切り 3月10日／第2次締め切り 4月10日／4月下旬 記者発表予定
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-21-5-301 市民連絡会気付
FAX 03-3221-2558 メール kenpou@annie.ne.jp

窓

アメとムチにつぶされた選挙 それでも岩国は負けない

上原 公子

二月一〇日の岩国市長選挙の結果は、おそらく多くの人に衝撃をもたらした。政府の理不尽な「アメとムチ」に、あの岩国市民は屈したのであるうか。

昨年の一二月議会で、米軍再編の受け入れ拒否に絡む市庁舎建設費の補正予算を認めない議会に対し、五度目の提案と引き換えに自分の首を差し出し、井原勝介市長は辞職した。米軍艦載機移転容認派の福田良彦氏との一騎打ちの出直し市長選は、福田氏四七、〇八一票、井原氏四五、二九九票と、その差は、わずか一、七八二票であった。わずかの差であれ、岩国市民は、艦載機受け入れを選挙した。私は、計九日間、ミニ集会にもすべて参加し、遊説で岩国市を隅々まで回り、井原氏と選挙戦を共にしてきた。今回の選挙で、さまざまのことが見えてきた。市民自治

とは、民主主義とは、日米同盟とは、など、日本の政治の問題が、岩国市長選に凝縮されていた。

そもその問題の始まりは、さかのぼること一九九六年に決まった、普天間飛行場の全面返還、SACO合意である。普天間飛行場の空中給油機KC130部隊が、岩国基地に移駐することになった。いわゆるたらい回しである。それでも、岩国は、これについては受け入れた。その見返りが、市庁舎建替総事業費の半分、四九億円の補助金であった。ところが、三か年補助の最終年度二〇〇七年度分三五億円が、突然打ち切られた。理由は、SACO交付金が、米軍再編交付金に変わり、「米軍再編に協力しない自治体には交付しない」ことになったからである。

米軍再編計画は二〇〇四年に浮上し、地元の説明もなく

厚木基地から岩国基地への艦載機五九機の移駐が決定された。厚木基地では、艦載機の昼夜を問わない離発着の「拷問のような爆音」に耐えきれず、三〇年にわたり、住民の裁判が続いている。すでに裁判では、この騒音は「違法状態にある」と認定をしている。しかし政府は、騒音問題を岩国に回すことで解消を図ろうとした。岩国では、飛行ルート下の住民は、すでに長年にわたって爆音に悩まされてきている。受け入れれば、飛行機は倍増する。これ以上の負担を住民に押し付けることはできないとして、井原市長は二〇〇六年受け入れの是非を問う「住民投票」を実施した。

結果は、八九%の「受け入れ反対」という圧倒的民意が示された。直後に合併後の市長選挙があり、井原氏は圧勝し再選された。二度の明らかな住民の民意を受け、井原市長は、政府に対し受け入れ拒否の姿勢を貫いた。

当初、議会も、周辺自治体も、山口県も、受け入れに反対していたが、足並みが乱れ始めたのは、安倍政権下で強行採決された「米軍再編推進法」（駐留軍等再編円滑実施特別措置法）の存在がある。この法は、米軍再編を受け入れる自治体に対し段階的に交付金を交付する。のみならず、

周辺自治体も交付対象としている。これは、交付金というアメで、周辺からも圧力をかけていく、兵糧攻めの法律である。この法律は、二〇〇七年「国民投票法」で国会が混乱しているときに強行採決された。多くの国民が、気がつかないうちにある。

かくして、米軍艦載機五九機の受け入れに絶対的反対であったはずの総意が、「ムチ」が功を奏し、議会が崩れ、商工会をはじめとする補助金欲しさの受け容れ派が勢力を強め、周辺自治体も転び始めた。

ここに、いくつかの問題点が見えてくる。

① 事の発端である市庁舎建設事業補助金と米軍再編問題は、まったく別のものであるにもかかわらず、国は米軍再編を進めたいあまりに問題をすり替え、補助金を打ち切った。

これは、「国のだまし討ち」といえる、横暴である。

② 「米軍再編推進法」は、金で地方自治をつぶす、聞くも稀な悪法である。これまで、国策に反対する自治体に対し、兵糧攻めをすることは、多く見られたことである。しかしそれは「密かに」であり、大上段に堂々と「言うことを聞かなければ金はやらない」という脅迫ともいえるやり

方をしたのは、岩国が初めてである。このような法律がまかり通れば、国の言うことを聞かない自治体は、いつでも兵糧攻めの法がつくられることになる。他人事^{ひとごと}ではない。

地方分権は国と対等の地方主権であり、その主権者は市民である。これを踏みにじる、地方の時代にあるまじき悪法が誕生したのである。

③ この、日本政府の強行を、アメリカは必ずしも歓迎していない。米軍再編の基地配置のアメリカ政府の原則は、「米軍は望まれ、歓迎され、必要とされる場所に配置する」である。にもかかわらず、日本政府が強引かつ理不尽な方法をとったことの裏には、ひとつには、基地を抱える地域の、長年に亘る激しい抵抗の運動の存在がある。「岩国の反対が起爆となつて、同じ動きが起こつてはかなわない」という恐れから、話し合いではなく、「金」という力で押さえ込むという手法に打って出た。財政的に疲弊している地方自治体には、きわめて効果的であるという思惑があつたに違いない。民主主義国家とは思えない、強引な手段である。

二つ目は、この強引なやり方で岩国への移駐を決めたのは、金にまみれて逮捕された、あの防衛省事務次官、守屋

である。多くを語らずとも、その背景に利権が透けて見える。国の横暴だけであれば、かえって市民の反発は強まったかもしれない。しかし、国の圧力を背に受けた福田陣営の選挙のやり口は、市民をずたずたに引き裂く凄まじいものであつた。

今回の出直し選挙は、争点が明確であつた。米軍艦載機受け容れ拒否か、補助金のために受け容れを容認するののか、それだけである。しかし、福田氏は、米軍艦載機受け容れは語らず、徹底して「財政破綻で岩国が夕張になる」と訴えた。福田陣営のチラシには、「井原市政では、国からの借り入れができずに、病院、市営バス、保育園、給食、図書館、体育館、児童館、各種助成金などがなくなる。税金が上がる。介護保険料が上がる」と書き連ね、果ては、公園の公衆トイレまでもなくなるという噂まで流された。チラシや電話だけでなく、作戦は三、四人のグループが喫茶店などで大声で井原批判をするという念の入れ方であつた。あきれたことに、「井原氏のミニ集会場に集会施設を貸すな」「集会に出るな」、はたまた「仕事をやらない」「首にする」の圧力がかけられた。前近代的選挙が、公然とまかり通つ

たのである。主権者の大事な、「自分の責任において町の方行を決める」という選挙権が、組織ぐるみで侵害されたことになる。

今回の選挙結果を悔やみながら、「投票率が一一%も上がったことは、民主主義の前進と評価できる」との、外部の意見があった。しかし、七六・二六%という驚異的投票率のうち、なんと約二一%が期日前投票であつたという現実がある。期日前投票場は、送迎付きの集団投票で、異常な雰囲気であつたという。投票率では、民主主義は必ずしも量れない。脅迫的な行動の下で行われた今回の選挙は、いまだ民主主義の確立されていない国での投票と変わりない。かつて、住民投票で五〇%ルールのクリアを阻止するために、「投票に行くな」のキャンペーンが張られたことを考えれば、「投票率の数字は、民意の反映とは必ずしもいえない」ということである。

責められるべきは、こうした福田陣営の妨害だけではない。岩国市でもっとも騒音被害の大きい地域の出身である民主党の平岡衆議院議員は、岩国入りした井原氏応援演説の中で、「ふるさとに対する国の横暴なやり方は許せない」

と、涙ながらに訴えた。しかし、民主党は、福田氏の辞任に伴う補選に出馬予定の平岡氏の票をにらみ、両股かけた自主投票にした。参議院選では生活者側に大きく路線を変えた民主党が、このようなあからさまな「地方つぶし・人権侵害」の国策に対し、肝心なときに党利党略の判断をしたことの罪は重い。

皮肉にも、投票日の夜に、沖縄でまたもや少女暴行事件が起こってしまった。艦載機受け容れに投票した人たちは、このことをどう思うのであろうか。爆音に苦しむ市民の人権を踏みにじつてまで、お金のために受け入れを強要し、それに同調した結果に、「腐敗しきつた政治を温存してきただ日本の民主主義」の未熟さを見た気がした。

これからは、基地依存ではなく、自立して生きるため、民主主義がつぶされないため、地方自治がいつそう重要になってきた。また、日米同盟問題を全国民が真剣に考えなければならぬ時期にきた。まれに見る、国と一体になった泥にまみれた選挙で、市民は分断されてしまった。岩国市民は、それでも屈していない。投票日の翌日には、「それでも岩国は負けない」と行動を起こした。岩国の物語は、まだ続く。

危機の日本海

堀場清子

ギリシャ神話の至高の神　ゼウスは

愛娘の女神アテナに与えた

蛇の髪もつゴルゴンの頭がついた「盾」^{イーリス}を

あらゆる邪悪を払う万能の「胸当」^{イーリス}を

——その名を冠した　アメリカ海軍のイーリス艦

巡洋艦・駆逐艦に　イーリス戦闘システムを搭載する

遠距離から同時に多発・飛来する　航空機や

対艦ミサイルや魚雷など

多数の目標を捕捉・攻撃して　艦隊を守り

「艦隊の盾」と呼ばれる



だがそれを「アメリカ本土の盾」と訂正したい

仮想敵国からの

弾道ミサイル発射の探知・追尾をする

同時に複数の迎撃ミサイルを発射しうる

大気圏外に飛散する多数の^{おとり}の四から

核弾頭を見分けて破碎する

二〇〇四年七月

北朝鮮のミサイル発射実験の際には

日本の本州最北端を挟んで

弾道ミサイル防衛作戦区域が設定された

一つは北海道松前半島西岸から約二八五キロ西方の日本海に

いま一つは岩手県久慈海岸から約二七〇キロ東方の太平洋に

それらと青森県^{しやりま}車力との三点は

一直線上に並ぶ

車力の航空自衛隊分屯地には

米軍の早期警戒用レーダーが設置されている

その目的が

アメリカ本土を狙う弾道ミサイルの防衛専一とは
言うも愚かだ

アメリカ海軍は同年一〇月から

イージス艦一隻を日本海に実戦配備し

薄気味悪いパトロールを始めた

二〇〇七年九月末には

日本海をうろつくイージス艦は六隻にふえている

横須賀を母港とし 直接アメリカ本土を防衛する

まったく新しいこの作戦行動について

日米安保条約には規定がない

しかも米軍再編によって

日本の自衛隊は米軍と一体化し

アメリカの戦争の下請け機関となる

ミサイル戦に 疑義を挟む時間はない



太平洋の赤道上に静止する弾道ミサイル探知衛星が北朝鮮は舞水端^{ムスダン}里での強い赤外線放射を捉えればアメリカ本土の北米防空コマンドにも

第七艦隊の艦艇にも 瞬時に伝わり

発射されたミサイルの種類と目標も解析されて

日本海のイージス艦から迎撃ミサイルが発射される

自衛隊が^{きょうりよく}下働き^ギするならば

憲法の禁じる集団的自衛権の日常的行使となる

すでに民間港の新潟港にも 秋田港にも

アメリカのイージス艦が寄港し

艦内見学会などで愛想をふりまいた

米国追隨の日本政府 に追隨する両自治体の首長は

反対する市民の声を黙殺し

のめ^めと入港を許可して

母港化への第一歩を踏み出した



最強の「盾」は

最強の「矛」に転換しうる

「純粹に防御的」な装置は

「純粹に攻撃的」な装置に転換しうる

いつでも「先制攻撃促進装置」に転換しうる

日本海と日本列島を利用するミサイル戦で

核弾頭が わたしたちの頭上に落ちてこないか

ミサイルの破片はどうか

核のシャワーが降りはないか

日本海を 次なる戦場にしようとする

暗い企みが蠢いている

怒濤よ 瀑沫しぶきよ

いかに吼えるか 逆巻くか

〈新連載〉台所の科学力！

足もとから科学しよう

第1話 電子レンジ

なぜ炎もヒーターも使わないで温まるの？

松崎早苗

はじめに

私は大学卒業後一年間だけ、中高一貫校で理科を教えたあと、ずっと国立研究所で化学関係の研究に携わってきました。大学で物理を学んだことから、原子爆弾を科学者が発明して大きな犠牲を世の中に出したことを、考え続けてきました。

そして、一九八六年に米国で、SDI、いわゆるスターウォーズ計画が、テラー博士という科学者の主導で立案され、政府の政策として発表されると、危機意識をもち、米国の反対運動と連帯して、つくばで署名運動を繰り広げました。このとき中心になったのは、子育て中の中年女性研究者三人でした。この運動は、やがて国際的な「科学と平和の運動」につながり、私たちは十五年ほど力を注ぎました。湾岸戦争が起き、〈あこら〉の斎藤千代さんがイラクに潜入したことを知って、講演をお願いしたこともあります。

私は国連決議に基づく「科学と平和の国際週間」の世界事務局長も勤めました。この運動は、東西冷戦構造が緩んで、ヨーロッパで核戦争の危機が遠のくと同時に、ほとんど終焉してしまいました。そして旧ソ連の崩壊が予想さ

れるころには、世界の科学者の関心は、軍事問題と同時に環境問題へと移っていきました。

その少し前から、つくばにおける私たちの運動も、原発(原子力発電)問題から、より広い環境問題へ広がっていました。原子爆弾や原子力発電を持ち出すまでもなく、科学・技術が生活の隅々まで大きな影響を与えていることがはつきりして、科学者運動としては、科学・技術の、社会的負の影響を取り上げなければならないと考えたからです。

一九七〇年をはじめからローマクラブの「成長の限界」はじめ、世界中で資源の有限性と環境劣化の圧力に関する報告が始めました。人類の繁栄が、行き詰まりを見せ始めていたのです。

市民感覚とすれば、自分たちが望んだ以上の負荷が、地球に、社会に、かかっていることに、いらだっていました。しかし、エネルギーと環境問題を、技術の発展形態の帰結ととらえてオルタナティブを提案する、たとえば「ソフトパス」などの提言を褒め上げる立場はナイーブ過ぎる、と批判されたこともあります。

巨大資本、巨大産業による世界制覇戦略の一環として、

様々なキャンペーンが展開されるのだから、たとえば、「地球環境問題キャンペーンが波のように繰り返されるのは、世界の原子力産業の策謀である」というような指摘です。

そういう面があることは確かですが、環境の悪化は明らかですし、巨大資本、巨大産業だけがそれを作り出しているのではなく、庶民が望んだことの帰結でもあるわけです。

どこが間違っていたのか、いるのか、それを学び、転換への道を探ることは、人類の一員としての責務です。

こうした負の側面を批判する声は、科学者自身からよりも、一般の人びとからのほうが大きいのは当然ですが、科学の功罪を考えるとときに「科学って何だろう?」とか、「技術って何だろう?」とか、本気で考えなければなりません。しかし、科学そのものを本質的に批判する言論は大変少ないのではないのでしょうか。市民運動として女性運動に期待するところが大きいのですが、こと科学になると、なかなか議論が深まらないのが現状です。とくに女性に耳を塞ぐ傾向があります。科学技術が発明した便利な品々や高度医療を大いに利用しているのですから、もつと科学の内側に立ち入ってみる必要があるのではないのでしょうか。

日本人の「科学力」は、劣っているか

最近新聞をにぎわした事柄に、学力低下の問題がありま
すね。

「日本人は科学リテラシーが先進国で最下位だった」とか「児童生徒の国際的学力試験で、理科がとくに劣っていた」などと伝えられ、安倍政権の教育政策に影響を与えました。

二〇〇七年末のOECD（経済開発協力機構）からも、前回の結果に追い討ちをかけるような結果が出ました。

「科学リテラシー」の「リテラシー」とは、もともと「文字に書かれたものを理解する力」ですから「科学理解力」と言つて良いでしょう。科学とは自然科学のことで、ヨーロッパのルネサンス時代に、デカルトなどがギリシャ時代の文献を読んで、中世の神学的でない自然認識の方法に目覚めたところから再スタートした方法論のことです。

ギリシャ時代には、ソクラテスを初めとした思想家があり、また、アルキメデスの原理でもわかるように、数学・自然科学者が、多くの功績を挙げましたが、ギリシャは亡びて、それらの文献は、いったん世から消えました。

その後、ヨーロッパ（イベリア半島）に入り込んだイス

ラム人が、それらの文献を、当時のヨーロッパ語であったラテン語に翻訳しました。そのことよつて初めて、後に「十字軍」として攻め入つてイスラム人を追い出したヨーロッパ人は、それを読むことができることになったと言われています。ですから、近代科学の始祖を現在のヨーロッパというように見なすのは、間違つているとも言えます。しかし、現代ヨーロッパ人は「科学はわがサイドのもの」と思つているのは確かです。

和魂洋才で沈んだ日本人の「科学力」

一方、残念ながら日本人は「科学は我がサイドのもの」と思ふことはできません。

理由は簡単で、明治維新で開国した我が国は、「和魂洋才」といつて、「才覚（科学）に属するすべてのことを西洋に学ぶことにした」からです。それまで生活の基盤となつていた知恵は卑下され、時の政府によつて人びとの価値観は「西高東低」にさせられてしまつたのです。そして敗戦を経て、「西洋イコール米国」となつて再び変更に強化され、今日に至つてゐるわけです。

その間に、困ったことに、「自分で考えることを停止し」、「学ぶことがすべて」になってしまったのです。ですから、「科学理解力」と書かれたとき日本人が想像することは、「教科書に書いてある法則や事実を学んで覚えていくこと」です。

しかし、「理解力」の中には、「覚えていく」ことだけを含んでいるわけではなく、「事実から法則を考えることや、知っていて応用すること」までを含んでいます。残念ながら日本人は、その部分が小さいのです。科学技術の進展が著しいことを見れば、この分野のダイナミックなことが想像できるのですが、「学ぶこと」に熱心なあまり、教科書に書いてあることを過去にも未来にも静止していることのように受け取り、議論がおろそかになっています。国じゅうがそうですから、一人ひとりが特別に悪いわけではありません。誰も大きな状況に支配されているのです。私自身こういう日本の大状況に深く影響されていることを実感しています。これが「日本人の科学リテラシーは先進国で最低」の背景です。

対照的なフィンランドの「科学する心」

「学力」で常に世界の一番にランクされているフィンランドの教育方針に面白いことが書かれていました。（註：文献 松崎早苗、「SSH—科学社会人間」101号、2007・7・20、p 33、書籍紹介記事）

フィンランドの教育理論は「社会構成主義的な学習概念」に基づいている。「構成主義とは、知識には何らかの目的・価値観が前提になっていることを認める立場である。知識は事実から構成されるが、事実の一つでも、知識は多様に作り出される。知識の真偽を問うことはできるが、誰の知識も完全ではないということだ。」「これを教育に適用すると、学習とは知識の受容ではなく、知識を探索し構成する主体的な活動である。」

どうですか？ 新鮮でしょう？ ここから、一斉授業ではなく、個別学習と「相対評価成績をつけない教育」が行われているのです。「知識を生み出すプロセスでは間違いを犯すのは当然」という考えで取り組んでいるものと思われまます。「正解がわからないことを考えるのは、楽しいこと、しかも社会的行動だ」と思わせれば大成功でしょう。

自分が受けた教育も、わが子たちが受けた教育も、「文部省の指導要領に則っているのだから文句言うな」という強圧的なものでしたから、質問も恐る恐るしかできなかったので、私の内面も解放が必要です。

というわけで、この連載では、私の頭の訓練につきあって頂きたいのです。

第一話 電子レンジ

初めて電子レンジを使ったときは、炎を使わないで、あるいは、電気ヒーターを使わないで、ものが温まるのを見て驚いたことでしょうか？

なぜ、物が温まるのでしょうか？

アメリカでは「物が温まるのなら、と、ネコを温めてあげようとして死んでしまったので、電器メーカーを裁判に訴えて勝った」と報じられました。これは、「作り話」だということも聞こえてきますが、たしかに日本のメーカーは、使用書に「注意事項」として入れています。なぜ、ネコを入れると死ぬのでしょうか？

そもそも「レンジ」って何語でしょう？

英語らしいと思いましたが、とことんアメリカ語です。辞書には「旧式な料理用ストープのこと。アメリカで電気レンジ、ガスレンジと使われる」とあって「range」としてはたいへん珍しい用法でした。「第二次世界大戦におけるレーダー開発の副産物として生まれ、一九七五年に日本に上陸した」というこの調理器は、「マイクロ波オーブン」と呼ばれるのが普通のようなのです。

さて、電子レンジは、マイクロ波という電磁波を使っています。遠赤外線（0.1から0.5ミリ、周波数にして数テラヘルツ、つまり1秒間に 10^{12} 回振動する波）と、ラジオ波（3から30メガヘルツ、すなわち、波長が1から10メートルの電磁波）の間を「マイクロ波」と呼んでいます。「サブミリ（0.1ミリ）波」、「ミリ波」、「極超短波」があり、「超短波」より長い波が「ラジオ波」になります。

科学者以外は、遠赤外線より短い波は波長で呼び、マイクロ波より長い波は周波数で言いますが、これは、単なる人間の都合です。メガ、ギガまではわかるけれど、テラでは、もうイメージが湧かない。あるいは、波長1キロメートルなどと言われると、逆にイメージが膨らみすぎて、つかみどころがなくなるからではないでしょうか。

電子レンジは、マイクロ波の中で、とくに波長が12・24 cm、したがって、周波数が2・45ギガヘルツを使っています。

注・光速は毎秒 3×10^8 メートルです。というか、 3×10^8 分の1秒間に光が進む距離が1メートルです。電磁波の伝わる速度(真空中)も同じです。波は上がったり下がったりするように描きますが、この一回分を1周期と言い、1秒間に何回あるかを、ヘルツ(周波数)という単位で表します。

電子レンジで使っている2・45ギガヘルツ、12・24 cmという電磁波は、水分子の分極、すなわち水分子の向き(極性)を揺さぶるエネルギーになります。

水の分子は、酸素原子1と水素原子2から出来ていて、原子はH—O—Hと結ばれていますが、真ん中の酸素原子のところで少し折れ曲がっています。この酸素原子を中心にしてくの字型になっている分子形のために、分極(プラスとマイナス電気の偏り)が生じます。分極のある棒を動かすエネルギーが、ちょうど2・45ギガヘルツ、12・24 cmという電磁波のエネルギーに相当します。

分子のO—H結合は伸縮しますし、折れ曲がりの角度も

揺れますが、その伸縮振動や偏角振動が起こるには、2・45ギガヘルツ、12・24 cmという、電子レンジの電磁波よりもっと高いエネルギーが必要です。への字型水分子の形は変わらないで、向きだけが変わるような運動がおきると、周辺の分子との間で摩擦が起きて熱が発生するといふ原理です。

さらに、波長とレンジの内壁の形を調和させて、波が箱の中で繰り返し反射して重なり合うように設計されているようです。

「容れものは熱くないのに、中の食物が温まってくる」のは、「瀬戸ものの容器には水分子がないから」と、「食物の表面では摩擦熱が空気中に逃げてしまうから」でしょう。「水を含んだ物全体」が温まるのですから、局部の温度は短時間ながら非常に高くなると考えられます。その局部熱が生物のタンパクや脂質の変性を起こし、ダメージを与えると考えられます。

最近、滅菌用として電子レンジが利用されていますが、この原理によるのではないかと思えます。従来、滅菌にはもっとエネルギーの高い紫外線が使われていましたが、電子レンジの局部熱も有効だとわかったのです。

ネコが死んだのはなぜか？ 察しが付きましたか？

詳しい実験報告は知りませんが、たとえば脳神経を作っているタンパクや脂質が変性すれば、生命に重大な影響を与えます。

最近、電子レンジの原理を利用したガン治療法が試されていますが、病院では目だけに覆いをして、マイクロ波を当てているようです。これは原理的におかしいですね。目のタンパクは紫外線に弱く、かつ、紫外線はごく表面で吸収されてしまいますから、サングラスを掛けて防げるのですが、20 cm、30 cmというマイクロ波は、表面で吸収されるのではなく、奥まで入っていくのですから、おかしいですね。マイクロ波の場合は、人間の身体のサイズでは、集光することが無意味になります。

波長が10³ cm以下のX線やコバルト放射線のような電磁波は、人間のサイズで見れば、ただ直進する線のようなものですから、それを集光して一点に照射することは考えられますが、それとは、わけが違います。身体全体を包むような当て方になりますから、それで「癌細胞だけにダメージを与える」ことは不可能で、全身の正常細胞もダメージを受けるはずで

超音波胎児撮影は大丈夫？

今は医療に異常な関心が集まっていますが、新しい治療法が出たと言われたときは十分注意しなければいけません。妊娠8週目でもう超音波画像を撮りますが、本当に胎児に影響が無いのでしょうか？「音波だから害は無い」と思われていますが、超低周波の音で具合の悪くなる人もいることとすし、将来、「無用な過剰医療だった」と後悔しないかと心配です。今では妊婦にX線を当てるなどという恐ろしいことはしなくなりましたが、昔は無害と考えられて、妊娠の診断に使われたのですから、人類の知識は当てにならないのです。新聞の外電記事によればアメリカの医者が「将来の癌の2%はCT検査の曝露が原因ということになる」と推定したと伝えています。CTはX線を使いますから、「エネルギーのずっとずっと高い電磁波」ということになり、被曝によってがん細胞ができることは、わかっています。ですから、「患者にとつて、発がんのデメリットよりもメリットのほうが大きいときだけ使うべきだ」と、WHOの指針にも書かれています。お医者さんから、そういうふうに説明を受けたことはありませんか？おそろくないでしょう。

あれから三か月。

柏崎は――

押見操子

毎月一日は、お義母さんの祥月命日なので、今日は、〈菓子竹さん〉に和菓子を買に行く。

うちを出て、ほんの一分で金毘羅神社がある。全壊している。いまは、よれよれのブルーシートがかけられ、痛いたしい。明治の大火で消失した花町が引越してその鎮守にできた神社だそうで、なかなか雰囲気のある神社であった。無住なのだが、町内の方がたが世話をして、きれいにしていた。本殿部分はつぶれ、屋根がそのまま地面に立っている。後ろは斜めにかしいで見える影もない。カラス天狗は無事だったが、狛犬は二頭とも地面から人間をにらんで

いて、何か責められているようだ。

末社のお稲荷さんは倒壊を免れた。しかしお稲荷さんの狐は、一匹は首が取れたまま横たわっている。片付けは随時行われているが、冬になつたので中断している。地震の前は、境内を突っ切って行ったものだ。隣の町内の鎮守社なので近いのだが、よくは知らない。しかし、柏崎に嫁いで二五年、ここにはさまざまな思い出がある。強い風に吹かれて斜めに立っている松林、短く刈りこまれた手入れのよい境内。参道、鳥居、力石。子どもを遊ばせっていると声をかけてくださった地域の方がた、小学

生。今ごろはどうしているんだろう。七五三のころ。お祭。わたしはこんなに涙もろかったかと足を速める。どうなるんだろう、どうすればよいのだろう。

〈菓子竹さん〉の向かいは花壇で、その外に道路があり、そこは今、更地になっているが、ここでは、おとしよりが一人亡くなられた。「地震でびっくりして外に出たら、すごい土ほこりで、家が倒れていた」と〈菓子竹さん〉の奥さんは言っていた。桜餅ときんつばと、夫の大好きな水羊羹（冬でも！）を買う。帰りは遠回りして帰った。

中越地震、中越沖地震と、二つの地震が中越地区を襲った。中越地震は「中山間地に住んでいる人びとをどうするか」という問題を日本に突きつけたように思う。もちろん被害を受けた地域は山間地だけではない。地方都市もそれぞれに被害を受けた。しかし、山古志がそのシンボルとされた。「日本中にある中山間地をなんとかしなければならぬ」という思いが、そこにあったのだ。問題を一般化でき、そのことが人びとの関心をひきつけた。自分たちの、身近な、中山間地に、もし地震があったら、どのようになるのか、してくれるのか。中越沖地震は、地方都市のケースであった。地震は中越ばかりではなく各地で起こっている。活断層があれば、地震があってもおかしくない。高齢者世帯の多い地方都市はどうす

るか。これからの問題を先取りしている。中央と地方の問題が表面化されるなか、地方都市が思いっきり不利な状態になったとき、どうするか。県は、国は、住民は、どうしたらよいのか。とりあえず、できるところからやっていこう、というのが現状で、すすんでいる。たとえば、それは、仮設住宅が建って、入居が終わって、さあこれからどうしようという段階だ。もうすこしさきにすすんでいるかもしれないが、この件についても発言しつづけなければならぬと思うし、「発信しなければ風化してしまう」と、危機感がある。しかし、それだけではない。この地震は原子力発電所をどうするかという問題を日本に突きつけた。「良くも悪くも、この問題に収斂する」と言い切る人もいる。

私の実家は、東京、吉祥寺である。「夫が柏崎に住むのだから、柏崎に住むのだ」としか思っておらず、住んでは、かなりの違和感があった。しかし、住んではや二五年、細胞も、みな入れ替わっている。そして今、全国の人にわかつてほしいことがある。私たちにも暮らしがあるということ。

この問題を考えると苦しくなる。ぐちゃぐちゃになってしまふ。どこから書いてよいのやら、整理がつかない。

言われれば、どっちもそのとおりで、賛同してしまふのである。事実の一つしかないが、側面はいくつもあり、その解釈も、それぞれであり、立場が違えば見方も違うのは、ある意味で、しかたがない。そのうえ、

中越から

それは本当ではないかもしれないと半信半疑で決められないのである。

決めても責任が取れないかもしれないと、怖いのである。でもね、でもね、の連続だ。

歴史が証明することになるだろう

といわれれば、もう何も考えられない。旗幟鮮明にできない。それが、

柏崎のふつうの人だと、私は思う。

私も普通の人だ。だから、原子力発電所に反対も賛成もない。

そのうえで、書いてみることにする。

安全であるとすれば、経験が知っている。中越沖地震では重大な事故が起きなかったともいえる。それは凄いいことで、技術の高さを誇りに思う。しかし、トラブル隠しの多さは、いったい、なんだろう。信頼関係がないそう重大だというのに、市民レ

ベルでうまくいつていない。

行政レベルでも、プルサーマル以来、今度の地震でも、慎重な態度に終始している。

柏崎刈羽原子力発電所は、全基、点検中で停止している。

風評被害については、ひどい有様である。観光業界は中越地震のときもそうだったが、集客が思うに任せない。高級魚が安い値段で食べられるというメリットがあつたぐらいである。現在も、回復していない。風評被害の原因は、噂話だから、「噂話を信じない人は、まどわされない」ということのはずだ。安全は前提条件になつてゐる。

総じて柏崎市民は、多くの人が、柏崎を、農業あり、ものづくり産業あり、観光ありの、バランスのよい町

であつてほしいと願つてゐる。多くの人に訪れてもらいたいと願つてゐる。

となると、原子力発電所の安全性について問題視すると、矛盾は起きないのか。

雇用の問題は、どうなるのか。

柏崎刈羽原子力発電所の持ち主、東京電力は、復興マネーを全開にした。風評被害を受けた地元への還元で即効性がある。それはありがたい。でも、もらつてしまつてよいのか。

東京電力は、昨年一二月に新潟県に三〇億円を寄付した。新幹線の雑誌に地元の記事が広告で載つてゐる。それはありがたい。地震前だが、環境共生公園を作つて寄付してくれた。今年は、東京電力はボーナスがないそうだと気の毒がる人もゐる。子どもと同級生のお父さん、友達、顔見

知り、東京電力にお勤めだ。名刺も何枚も持っている。

趣味の仲間、尊敬すべき社会人、ネットワークには、たくさん東京電力の人がいる。そういう人も少なくはない。

原発立地ということで優遇されてきた経緯があり、それに慣れてしまっている。よそからは、実は白眼視されている。柏崎市民だということで、「長いものには巻かれろ」というのが、「是」だと思われる。その反面、世界一の原子力発電所立地都市であることには、間違いなく手本にならざるをえない。それを存在の根拠とすることもできる。

原子力発電所と共生してきた経験があることも事実である。「原子力発電所を市民に開く試み」、原子力発電所反対団体、原子力講座、市民

に有益な施設の経営等々歴史がある。それは、発電所にも反対団体にも、負荷がかかっていた。そして、一般市民は、知らぬ顔をして安楽に暮らしてきた。

ところが、この地震をきっかけに、先輩としての判断を、問われることになった。つまり、他の原子力発電所に、同じこと(活断層の上に立地していて大きな地震がある)があったとき、もしもの時に、どう責任を取るのだ。発言は慎重にならざるをえず、ほんとうに楽ではない。

*

長い雪の季節が終わり、雨音がすると、春になったな、と感じる越後の柏崎。

一月三十一日は、朝から雨音がしていた。去年も記録的な少雪だった。地球は温暖化しているのだろうか。

「柏崎刈羽原子力発電所が活動しないと、日本の削減目標の二酸化炭素排出量の二%分が達成できない」と、テレビで言っていたのを、聞いた。本当かどうか、わからないにしても、「それも私たちにかかるのか」と思ってしまう。

たしかに地球温暖化は容認できないことだ。リサイクルもしている。トイレの電球も蛍光灯に取り替えた。原子力発電所立地の人たちに「温暖化対策は頼むね」と、まかせつきりてよいのだろうか。

テレビなどで「原子力発電所は危険だ」という発言者が出ていると、つい、「あなたは電力を自宅のソーラーシステムだけで賄っているのですか」と突っ込みを入れたくなってしまうのだ。

一方、「原子力発電所は絶対安全だ」

中越から

という人が出ていると、つい、「東京に造ってみろ」と思ってしまう。

「サイレンが鳴れば、『もしや原発?』と、耳を澄ませる暮らしをしているのを知らないか」と、ムカツとするのだ。「それなら、違うところに住めばよいのに」と、全国の人たちは思うかもしれない。

ところが、ここですか、このコミユニティでしか、暮らせないのだ。だから、悩みが大きいのだ。

そして、せっかく育てた子どもたちに、「他で暮らせるなら、帰ってこなくてもよいぞ」という父母が、現実にいるのだ。

それでも、自分の住んでいるところを愛している柏崎の人びと……。
だんだん支離滅裂になってきたのでここで終わりにしよう。

*

一月三十一日の『柏崎日報』には、

IEIA（国際原子力機関）の現地視察がトップニュースになり、その下には、「市民ネットが原発再開反対を冊子とDVDで訴える」という記事が載っていた。

柏崎という町は、原子力発電所で世界につながり、原子力発電所と共生しながら、（原子力に頼らない社会）も模索し、地震による復旧復興を行うおうとしている、とてつもなく忙しく、平穏で、いろいろと悩みながら、何とかやっていかなければならない町なのだ。

*

プリンターのふたの上で、ネコが寝ている。

横座りで寝ているので、おしりがふたからずり落ちそう。寝返りを打てば、絶対、プリンターから落つ

こちろ。

枚数ボタンは、後足の下になっている。

「キーボードを叩いている人を監視しながら寝る」のが、居間での、ネコの贅沢だ。

夫は、プリンターの上に載るのを禁止しているが、ネコは、斜面なのに、大好きである。私が、ときどき触ってやると、嫌そうに対応する。自分の方がえらいと思っている。

ネコは「自分が夫のベストワンだ」と思っている、妻の私には、「勝ったね」という目つきだ。

でもこのネコは、さびしがりやで人に触られたくないが、人間と一緒にいるのは好き。猫にとっては原発問題など関係ないことなのだろう。こんなネコの幸せを、長続きさせてやりたいと思っている。

またしても米兵、少女暴行

桑江 テル子

またしても沖縄で、米兵による少女（14歳）暴行事件が起きた。被害少女の恐怖と痛みに思いを寄せ、凶悪・非道な海兵隊の撤退を求める県民の怒りの声が燃え上がっている。日本本土に住む皆さんは、この基地あるがゆえの、軍隊Ⅱ兵士による性暴力事件の続発を、どのように受け止めるだろうか。

事件は、去る二月一〇日、三連休の中日、夕方八時すぎに起きた。街の活性化をめざし昨年暮れに新装オープンしたばかりの沖縄市ミュージックタウン「音市場」で遊んでいた女子中学生三人組に近づき、「その

服かわいいね」などと話しかけてきた米海兵隊二等軍曹（38歳）が、「お家まで送ってあげる」などと言葉巧みに一人の少女を自分のオートバイに乗せて連れ去った。ところが少女の家にではなく、米兵の自宅（基地外の賃貸宅）に連れ込み乱暴しようとした。泣き叫び逃げ出した少女を、こんどは自家用車で追いかけて、つかまえ、車に押し込み、二時間余にわたってつれまわしレイプした。

少女が友人に発した携帯電話の、「助けて！」の声で異常を知った友人たちは、すぐに警察に通報。非常事態が敷かれ、一〇時半ごろ、北谷町の

公園内で、少女を保護。彼女からの情報を手がかりに捜査が行われ、一時間後には、加害米兵を自宅近くで逮捕した。

「普通の生活の場で起きた凶悪事件！」として、母親集団である婦人会、女性団体、教育関係者、平和団体をはじめ、県議会や市町村議会でも抗議決議がなされ、集会が開かれている。

怒りの渦は県民大会を求める大きなうねりとなっており、昨年九月の教科書改ざんに抗する県民大会（約一二万人）につづいて、島ぐるみ超党派の行動が準備されている。

沖縄から

多くの犠牲者を出した太平洋戦争。

沖縄地上戦から六三年目、異民族支配を脱し、日本復帰（施政権返還）を果たしてから三五年目、基地オキナワの悲劇はつづく。沖縄の負担軽減は名ばかり。基地の再編は、事件・事故・人権侵害を加速している。

日本本土の皆さんの記憶にもあるでしょう。一九九五年の三米兵による少女強かん事件。島ぐるみの抗議県民大会（約八万五千人）が開かれ、時の大田知事は「行政の長として一人の少女の人権を守れなかったことを深くおわびします」とあいさつした。

県民総意として「基地整備縮小」「謝罪と補償」「再発防止」「地位協定の見直し」を決議し、日米政府に解決を迫ったのだが、その後もひき逃げ、強かん、強盗など、事件は絶えない。

「女性たちの緊急行動」

◆二月十九日（火）は、〈基地・軍隊を許さない行動する女たちの会〉が中心となり三〇の賛同団体が主催者となり、「危険な隣人は、いらない！緊急女性集会」が開かれ、三五〇人が結集した。参加者からは次つぎと怒りと糾弾の発言が続いた。

▲いったいこの島はこの国なの？ 私たち沖縄県民は何人なの？

地位協定見直せ！

▲米兵はフェンスの内も外も自由！

住民地区に入れないで。

▲日本政府は負担軽減と言いながら辺野古や高江に新基地を押しつけている。

▲インターネットや週刊誌誌上で、被害少女へのプライバシー侵害が氾濫している。

▲少女は一〇〇％悪くない。少女を守ろう！

▲もし、わが子、わが孫だったら、と考えて、恐怖と痛みを共有しよう。性暴力は、被害者の人格を破壊し、人生を狂わせる。絶対に許せない。

▲加害者が基地外に居住し、軍の規律も守らず野放し状態だ。地位協定見直しを！

▲政府は米国に基地を提供している責任者だ。沖縄をいつまで犠牲にするのか。

▲子どもの安心・安全の権利を、どう保証するのか。大人の責任だ。

ほか多数の発言。

三〇団体は、集会アピールを、総理大臣、防衛大臣、駐日米国大使、四軍調整官、沖縄県知事など、関係者に提出、抗議・要請行動を展開した。

（〇八年二月二日記）

「危険な隣人は いない！」 緊急女性集会・集会アピール

2月10日、またしても米兵による悪質な事件が起こったことに強い憤りを覚えます。基地・軍隊が存在するゆえに、沖縄では女性や子どもたちが安心して暮らせない状況が、戦後63年間も続いています。私たちには、いつでも、どこにいても安全でいる権利があります。それなのにどうして、米兵が、県民生活の中に自由に入り込めるのでしょうか。なぜ、子どもや女性が安心して生きられる環境が大事にされないのでしょうか。被害に遭った少女の恐怖、父母や友人の悲しみと怒り、さらに地域の人びとが受けた衝撃と不安は、計り知れないものがあります。

女性たちが声を掛け合って、この会場に集まった私たち。一人ひとりが地域から、職場から、教育の現場から、家庭から、それぞれの立場から少女の痛みを思い、「もう、これ以上の暴力は許さない!!」と声を挙げ、集まってきました。また、図らずも今回の事件をきっかけに、基地の外に暮らす米兵たちのたび重なる女性への暴力の実態が明らかになってきました。私たちはここに、「よき隣人」の名の下で、県民の生活の場で犯罪を繰り返す「危険な隣人はいない！」ことを訴えます。

さて、裁かれるべきは、少女の尊厳を踏みにじった加害者であり、暴力を受け、今も苦しんでいる被害者ではありません。一部のマスコミの刃は被害者へと向けられ、被害を受けた少女は、セカンド・レイプを受ける状況になっています。私たちはこれらのマスコミに対し、被害を受けた少女への言葉の暴力をただちにやめるよう求めます。そして、被害者への十分な心のケアを求めます。

事件が起こるたびに、「綱紀粛正」「兵士への徹底教育」が約束されます。しかし、何度も繰り返される事件は、基地のある限り根本的な解決がなされないことを物語っています。私たちは、一兵士の暴力ではなく、軍隊の構造的な暴力に、晒されているのです。地域を防犯のカメラやMPで監視するのではなく、海兵隊の撤退こそが、私たちの望む根本的解決なのです。

よって、私たちは下記のことを強く求めます。

記

- 一、暴力を受けた少女への精神的ケアを十分に行うこと
- 一、被害を受けた少女への謝罪と補償、加害米兵の厳正なる処罰を行うこと
- 一、基地外に居住する兵士の実態の把握と、その見直し
- 一、すべての在沖海兵隊の撤退
- 一、県民大会の開催

2008年2月19日「危険な隣人はいない！」緊急女性集会参加者一同

あて先	・ 内閣総理大臣	・ 防衛大臣	・ 沖縄県知事
	・ 駐日米大使	・ 在沖米四軍調整官	・ 在沖米総領事



2月19日午後8時50分、北谷町の ちゃたんニライセンターで（2月20日『琉球新報』朝刊に掲載）



シュプレヒコールで「性暴力は許さないぞ」と、米軍犯罪を糾弾し、基地撤去の意志を確認した緊急女性集会

〈新連載〉

ちよつとひと息

★翻訳してみました★

貧しい人びと

原作

ビクトル・ユゴー

翻案

レフ・トルストイ

訳

くわはら ちえこ

暗い荒れた夜でした。貧しい漁師の家では、暖炉のそばで、ジャンナが、粗末な布でできた古い帆の修理をしていました。

口笛を吹くような、風がうなる音、窓をたたく雨の音、しぶきを上げ、岸にぶつかる波の音を、ジャンナは聞いていました。

部屋の内には、白いカバーをかけられた古いベッドがありました。

床には、大きな敷布団が敷かれ、五人の子どもたちが、海のざわめきを子守唄にして、気持ちよさそうに寝ていました。

ジャンナの夫は、今、海です。夫は漁場へ出かけたのです。

このように暗く寒く、天気の良い夜に、海へ、なにをするために行ったのでしょうか。七人を飢えさせるわけにいかないのです。

ジャンナには、海のざわめき、風のうなり声、時にはかもめの悲鳴までも聞こえました。

雨はますます強くなっています。ジャンナは不安になりました。

舟が事故にあったような気がしてきました。なにか恐ろしいことが……。

舟ががけにぶつかって、ばらばらになり、海に沈んでしまい……恐ろしい……

木でできた古い時計が、かすかに規則正しくチクタクチクタク音をさせています。

子どもたちは眠っています。

ジャンナは考え込みました。

生活は楽ではない、夫は骨惜しみしないで寒い嵐の海へ出かけていった。

ひっきりなしの危険の中で身をさらして働いている。

わたしも朝から晩まで働いている。

いったいどうしているかしら。魚はたくさんとれたかしら。

小さな子どもたちは、いつも裸足で走りまわっている。

小麦パンなど思いも及ばない。ライ麦パンがあるときは幸せだ。ほんとうに いつも魚ばっかり。

辛いなことに 子どもたちは元気だけだ。

「ああ、神さま！　なんと、海がうなり、風がほえています。夫は、今、どこにいますのでしょか。守ってください。神さま。お願いします！」

眠るには、まだ早すぎました。ジャンナは立ち上がって、厚手のスカーフをかぶり、ランプに火をともし、夫が帰ってこないか、海が静かになったか、様子を見るために外へ出ました。

が、そこには、灯台の明かりさえ、もの悲しく見えるだけでした。

暗闇です。細かい絶え間ない雨が降っていました。

村のはずれの海岸の最先端に、ゆがんだ黒い壁、こわれかかった戸のついた、崩れかけたあばら家がありました。

突風が吹くたびに戸はきしみ、音をたてていました。風はこの粗末なあばら家に、ものすごい勢いでおそいかかり、その小屋を吹き飛ばそうとしているのでした。戸はきしみ、うめき、屋根の腐ったわらが、がさがたと音をさせ、慈悲を願っているようでした。

ジャンナは小屋の敷居近くに立ち止まり、ゆがんだ窓からのぞいてみました。家の中は真っ暗です。かわいそうな病人を見舞わなければいけない、とジャンナは思いました。自分が彼女のことをすっかり忘れていたことに気づいたのです。

以前、夫が「病人はますます悪くなっている」と話していました。

彼女は未亡人なのです。誰も彼女をみまもっていないのだと気づいたのです。

ジャンナは戸をたたき、耳をすましました。

あばら家の中は静かで誰も返事をしません。

「かわいそくに」

戸口近くに立ってジャンナは思いました。

病気はどうだろうか。家族の面倒を見なければならぬときに、それなのに、病気なのだ。

たった二人の子どもだけけれど、すべてのことが彼女一人にかかっているのだ。

ああ つらいことだ！

ジャンナは何回も戸をたたきました。それでもやはり答えはありません。

「おい お隣さん」

ジャンナは泣き叫びました。そして思いました。

ぐっすり寝てしまったのだ。だから目を覚まさないのだ。

と……。

風がまたも、うなり始めました。

濡れているジャンナは、あまりの寒さに身ぶるいしました。

ジャンナは家へ帰ろうとしましたが、突然強い風が吹き、スカーフを吹き飛ばそうとし、古い戸を揺さぶり、戸そのものが倒れて開いてしまいました。

ジャンナは敷居をまたぎ、中に入りました。

ジャンナのランプが、闇につつまれ静まりかえった小屋の中を照らしました。そこは湿って寒く、まるで外のようにでした。

あきらかに長いこと部屋を暖めたことはない様子です。いたるところ、ざるを通したような雨漏りがしています。

戸に向かい合った壁に沿って、泥だらけのわらの山があり、その上に、未亡人の死んだ体が横たわっていました。

頭は仰向けになっていました。口をあけた顔は冷たく、恐ろしい表情でかたくなって、絶望しているままでした。

死体のすぐ近く、みすばらしいゆりかごの中に、ちぢれ毛の、ほおのふつくらした二人の小さな

子どもが、体を曲げ、金髪の頭をお互にくっつけ、安らかにぐっすり眠っていました。

近くに死体。外は嵐のうなる声がしていたにもかかわらず、死ぬまぎわに、母は大きな古いスカーフでかわいい足をくるみ、自分の衣服で二人を包んでいました。

小さいほうの子は、ほおの下へふつくらした手を置き、一方の子は、弟の首へ顔を埋めていました。彼らの息は穏やかで静かで、眠りは甘く健やかで、何も恐ろしいものはないようでした。

嵐はまったくおさまっていません。

風はほえ、うなっています。

雨のしずくが屋根を伝って部屋の正面に落ちています。

そして、冷たいほおも濡れていました。

彼女のもの悲しげなゆがんだ顔に、涙が流れているようでした。

ジャンナは走って家に帰りました。

彼女はマントの下に何かをかかえていました。

彼女の心臓は激しく打っています。まるで誰かが彼女のあとを追いかけてくるかのように、彼女は後ろを振り向きもしないで、走りつづけました。

いったい何を盗んだのでしょうか。

家に帰ると、ベッドの上に重いものを置き、急いでカーテンを閉めました。

椅子を持ってきてベッドのそばに置き、枕もとへ顔をふせました。

真っ青になり、不安になっています。

どうしたらいいのかしら。

夫はなんと言うだろう！

ため息がでます。

わたしは なんていうことをしたのだろう？

ほんとうに！ 自分たちには五人の子どもがいる……彼らもまだ小さい……。

夫はどうするだろう。

それにしてもまだ帰ってこない！

なぜこんなことをしたのかしら。

もし彼がわたしをぶんなくったら？

その後はどうなるの？

あ、帰ってきた。

ちがった。

戸が がたがたしました。誰が入ってきたようです。

ジャンナは身ぶるいし、椅子から立ちあがりました。

が、そこには誰もいません！

ああ、何のために、どうしてわたしはこんなことをしたの。

夫は今どこにいるの。

いったいどうしたの。

長い間、ジャンナはベッドのそばに座り、考えこんでしまいました。

雨がやみました。けれど前と同じように、風はうなり、海鳴りがしています。

突然、戸が勢いよく開き、新しい海の空気が吹き込みました。

背高く浅黒い漁師が、濡れたぼろぼろの網を引きずって、家の中へ入ってきました。

「ジャンナ、今帰ったよ」

「ああ、あんた！」

ジャンナは、にこりともしないで夫を見上げ、座ったまま言いました。

「すっかり遅くなった！ おっかなかったよ。ほんとうに恐ろしかった！ ひどい天気だ！」

「漁はどうでした？」

「最低だ！ まったくひどいもんだ。なんにもとれなかったさ。網をひきさいたただけだ。悪いよ。どうしようもない悪さだ。こんなひどい天気は。」

風は悪魔のように吹きまくるし、ボールのように舟を投げるんだ。

ロープが切れて、舟が海の底へ沈むかと思った。まったくひどい漁だ！

ありがたいことに、やっと生きて帰れたさ。

で、おまえさんはどうだったかね」

漁師は網を土間にひっぱりあげ、暖炉のそばへ座りました。

「わたし？」

と言つてジャンナは青ざめました。

「ええ、帆をつくろっていましたよ。恐ろしかった。お前さんのことが心配で」

「そうかそうか、天気はまったくひどかったなあ！　お手上げだ！」

二人は黙ってしまいました。

その後でジャンナは、ぐずぐずと、びくびくしながら、すまなさそうに話しました。

「あー、お隣のシーモンさんが死んだの。死んだときは、知らなかったわ。昨日は生きていた。きつと……。」

あんたが心配で、外へ出たとき、寄ってみたの。

死んでいたわ。つらいことに子どもたちを残して。

心残りだったでしょうよ。だって、小さな子どもが二人いるのですもの。

一人は、まだ話すこともできないし、もう一人はやっとハイハイを始めたばかりですもの……」

ジャンナは黙ってしまいました。

漁師は、顔をくもらせました。

彼の善良で率直な顔が真剣になりました。

「なんとということだ。えらいことだ！」

と彼は言いました。

さらに首をかきながら、

「何とかしなくちゃ！　子どもをつれてこよう。さもないと、目が覚めたら死んだ母親のそば、と

いうことになる。かわいそうだ。なんとかなるさ！　急いで連れてこい！」

しかし、ジャンナは、そこから動きませんでした。

「どうしたんだ、おまえ。いやなのかい。大丈夫だ！　子どもを連れてきたくないのか……」

「どうしたんだ、ジャンナ？」

ジャンナは立ち上がり、黙って夫をベッドのほうへ連れて行き、さっとカーテンを開けました。そこには故人の子どもたちが横になり、ぐっすりとすやすや眠っていました。

*

「くわはらちえこさんから」

この作品は、レフ・トルストイの「読書の輪」から選びました。

原作はビクトル・ユゴーです。「読書の輪」は、北御門二郎訳の「文読む月日」にあります。トルストイ晩年の編纂の古今東西の知恵がいっぱいの書物で、「一週間にひとつ」の読み物が、一月一日から十二月三十一日まであります。

一月七日のあとが「貧しい人びと」です。「文読む月日」では三月三日のあとに載っています。原書が異なるためと思います。

レフ・トルストイの作品を原書で読んでみたいと、六〇歳定年退職後、ロシア語専門学校で学びました。私にとって三年間の専門学校時代が至福のときでした。未熟なロシア語ですが、訳してみました。

誤訳など、ご指摘いただければうれしいです。

*

さし絵を描きたくなった方は、絵を送ってください。

「自分も何か書いてみたい」と思った方は、原稿を送ってください。短歌・俳句・詩・随筆・小説・絵画・写真……。

「あごら」のなかの、このコーナーを、ステキな憩いの場にしてくださいね。お待ちしております。（編集部一同）

「警官の父」を殺した少女、少年院送致に

○七年九月、京都府警巡査部長の父を斧で殺した一七歳の少女に、京都家裁、生熊正子裁判長は「父の女性関係に生理的な嫌悪を抱いたのが原因。結果は重大だが、資質上の問題と家庭内の貧困が閉塞感をつのらせた」と、中等少年院送致の保護処分。殺人の場合、一六歳以上は「未成人でも成人と同じ刑事裁判を受ける」少年法原則を、あえて「特段の事情がある」とした。

相次ぐ冤罪につる「警察不信」

女性を犯した罪で三年間服役した富山の男性（四〇）。鹿児島県議選の選挙違反として、三九五日も身柄拘束された結果、「無実」が判明した「鹿児島事件」。相次ぐ冤罪に、警察庁は「取り調べ適正化指針」を発表したが、自由や職業を奪われた人たちは「抜本的な対策を」と怒る。

中国のGDP 11・4%成長、ドイツに迫る

中国国家統計局が一月二四日発表した〇七年の中国の国内総生産（GDP）実質成長率は、前年比11・4%。五年連続で10%を越え、名目三七〇兆円に。この五年で二倍に拡大、米国・日本に次ぐ世界第三位のドイツに迫った。

大学入試英語リスニングで今年もトラブル

大学入試センター試験の英語リスニングの最中、一部の学校で室外の騒音のため、聴取困難になり、再度テストを行なったところが出た。二年続けてのトラブルに、「リスニングテスト不用論」も浮上している。

チンソからの一時金給付を拒否して抵抗

水俣病罹患者の悲劇は今も続いているが、水俣病の原因

をつくったチツソは、未認定患者の救済について与党プロジェクトチームがつくった一時金給付を、拒否した。

理由は九五年の政治的決着が最終案「会社は株主、従業員、取引先、金融機関の協力で成り立っているが、支払い根拠を明確にできない」というもの。本来なら、事件の原因が解明されたときに十分な補償をすべきだったのに行われず、いまだに苦しんでいる被害者も少なくない。

債務超過を続けるチツソには、国、熊本県、関係金融機関が協力して資金繰りを援助。とくに熊本県は県債を発行して資金を調達、チツソに貸し付け、この県債の大部分を国が引き受け、その総額は一七七〇億円にも達している。

一方、水俣病患者の悲劇は、ますます深刻化しており、国の断固たる姿勢を問う声が改めて大きくなっている。

「延命中止の指針」に現場は困惑

家族が「もうやめて」と望んでも、中止は難しい延命治療。日本救急医学会は一月、ガイドラインを公表したが、全国の救命救急センターの六割が採用に慎重。理由は「刑事責任を問われない保証がない」が大部分。

年金を自主的に見直そう

社保庁が年金記録の確認のため送付している「年金特別便」の回答者のうち、「記録に問題なし」と回答した人を再確認したところ、約半数に記録洩れが――。ずさんな社保庁。積極的に確認することが必要では。

野党、解散・総選挙を迫る

参議院だけとはいえ、与野党逆転した国会。民主党は、まず、ガソリンの暫定税率廃止を主張、久しぶりに国会らしい論戦を展開した。野党が国政調査権を生かして事実に基づいて追求すれば、解散・総選挙も可能になるだろう。

市長と市議会対立の岩国で基地推進派が勝利

厚木基地からの米軍艦載機の受け入れを推進する市議会と、拒否する市長が対立していた岩国市は、市長が暮れに辞職した。

合併前の一昨年三月の住民投票では「移転反対」が多数

を占め、その後の合併による新市長戦でも「移転撤回」の井原氏が当選したが、防衛省は「移転すれば、市の財政を援助する」と公表、移転推進派の福田良彦氏が、僅差ながら勝利した。基地存続をめぐる重要な選挙として、全国から市民運動の活動家が支援に駆けつけただけに、この敗北は、重く受け止められている。

全動労採用差別裁判東京地裁で勝訴

一〇四七名のＪＲ不採用で、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備機構を相手に、全動労争議団（原告団と、遺族五八名が損害賠償を求めている裁判で、東京地裁民事一部、佐村浩之裁判長は、一月二三日、被告の不法行為を認定、原告一人あたり五五〇万円（遅延損害金を含め、総額六億三八〇〇万円）の支払いを命じた。

三年間の弁論は一回に及び、原告全員に、分割民営化当時の北海道九か所の元職場における状況と総論について証人尋問が行われたが、判決の判断基準となったのは、「ＪＲ採用名簿に選定しなかったのは不法行為にあたるか」「損害賠償請求権は、民法七二四条により時効が消滅したか」の二点。

ふえみん

f e m i n

ジェンダーの視点で社会を捉えとく新聞です。

☎ 150-0001
東京都渋谷区神宮前
3-31-18

☎ 03-3402-3244
03-3402-3238

FAX 03-3401-3453

E-Mail femin@jca.apc.org

URL <http://www.jca.apc.org/femin/>

見本紙

ご請求下さい!

大阪支局 ☎ 530-0041
大阪市北区天神町
3-10-8-404

☎ & FAX 06-6356-0778

★タブロイド判8ページ/毎月5・15・25日発行
購読料:年間9,000円・半年4,500円(送料込み)

自分で
考える人と
一緒に
考えたい。



沖縄で、またも少女暴行

二月一〇日(日)、沖縄市で、一四歳の女子中学生が米兵の家に連れ込まれて暴行を受け、九五年の少女暴行の傷も癒えない沖縄県民に大ショックを与えた。県議会は一四日、全会一致で抗議決議の意見書を採択。女性団体は二月一九日、北谷町で緊急抗議集会を開き、「危険な隣人は要らない!」と強烈にアピール。〈あごろ〉は317号を「沖縄特集号」として全国の市民に訴える。

イージス艦、漁船を真つ二つに

海上自衛隊のイージス艦「あたご」は、二月一九日、午前四時七分、マグロはえ縄漁船「清徳丸」と衝突。清徳丸は二つに折れ、操舵室にいた船長と、その長男は、海に消えた。

イージス艦は衝突の二〇分以上前に漁船団を把握しながら危険性を軽視。自動操縦を続け、船長は別室で仮眠。漁船が密集する東京湾の危険性を全く無視した行動に、遺族や漁協はもとより、一般市民からも抗議の声。遭難審判庁

は二六日以降、改めて事情聴取。防衛庁から首相に至る政府高官の責任が問われる。

【惜別】

若桑みどりさん ジェンダーの視点からの美術史研究で知られる、千葉大名誉教授。〇七年十月三日午前三時ごろ、虚血性心不全のため、東京都世田谷区の自宅で急逝。七一歳。東京生まれ。東京大学卒業後、イタリア留学を経て東京芸大教授、千葉大教授、川村学園女子大教授を歴任。専門は、イタリア美術史だが、美術における女性の位置についてのジェンダー研究や・発言も多く、ジェンダー文化研究所を主宰。八〇年に『寓意と象徴の女性像』でサントリー学芸賞、『薔薇のイコロジ』で八四年度芸術選奨文部大臣賞、〇三年に紫綬褒章。〇四年には『クアトロ・ラガッツィー——天正少年使節と世界帝国』で大佛次郎賞を受賞した。ロシア文学者の川端香男里さんは、みどりさんの兄。

高津暁子さん 〈あごろ〉会員。東京・杉並区内の老人ホームで『あごろ』を愛読しておられたが、〇七年十一月、

直腸がんのため逝去。

高杉一郎さん 戦後の記録文学を代表する作品『極光のかけに』などで知られる作家・翻訳家の高杉一郎（本名・小川五郎）さんが〇八年一月九日、九九歳で逝去。

静岡県生まれ、東京文理大卒。編集者として改造社に勤務。同社解散の四四年に召集され、戦後四年間、シベリアの捕虜収容所で抑留生活を送った。

帰国後の五〇年に『極光のかけに』を発表。スターリン体制の冷酷さとロシア民衆のたくましさ、日本人抑留者の表情を詩情あふれる筆致でリアルに描き、ベストセラーになった。

また、学生時代からエスペラントを学び、大正期に滞日したロシアの盲目のエスペラント詩人 エロシエンコの全集を翻訳、高く評価された。長谷川テルがエスペラントで書いた『風のなかのささやき』なども翻訳。

著書は、ほかに『スターリン体験』『往きて還りし兵の記憶』など多数。翻訳では児童文学の傑作といわれるフィリパ・ピアスの『トムは真夜中の庭で』など。静岡大・和光大の教授を歴任した。

一月二六日の告別式（於青山葬儀場）で喪主をつとめら

れたご長女田中泰子（ロシア児童文学の翻訳者）さんのお話によると、お正月にはお孫さんたちに「ラ・マルセイエーズ」を原語で歌い聞かせ、ご機嫌でいらしたという。

気骨のあるひとりの人間として、二〇世紀の光と闇を見つめて生き、貴い遺産を残された。

片岡球子さん 日本芸術院会員。独自の画風で日本の画壇に鮮烈な新風を吹き込み、日本美術院賞、大観賞、第11回芸術選奨文部大臣賞はじめ多くの賞を受賞した画家。

1905年札幌生まれ。難関で知られる北海道庁立札幌高女を卒業後、女子美術専門学校（現在の女子美術大学）日本画科高等科に進学。26年、同校を卒業、教職につき、30年、第17回日本美術院展に入選。46、48、50、51、52年、院展賞。50、51年、白寿賞。52年大観賞、61年、芸術選奨文部大臣賞を受賞。82年、日本芸術院会員。86年、文化功労賞。作品が雑誌等に掲載されるのは拒絶し続けておられたが、『あら』300号の表紙を飾らせてくださり、出版界を驚かせた。女性には、やさしい方だった。百歳を過ぎても個展を開かれるなど、まだまだ活躍が期待されていたが、〇八年一月一六日、一〇三歳の天寿を全うされた。

会と催し



「市民の風」の新しい風？

久しぶりに「平和への結集をめざす市民の風」主催の集會に参加してみた。二月一七日に行われた「総選挙・政界再編と野党連合を考える市民の集い（仮）」の第一回実行委員会がそれである。

平和の共同候補を求める「市民の風」の運動は、一昨年の七・七シンポジウムには、上原公子、川田悦子、斎藤貴男、佐高信、湯川れい子の各氏をバネリストに呼んで、大いに盛り上がったものである。その後、この運動に批判的だった共産党との関係で同党に近い層が離れ、昨年末には「左派」にこだわるグループが「政治の変革をめざす市民連帯」を旗揚げして別れ、最近はいよいよ影が薄くなっていた。

もともと、「国政選挙に共同候補を立てて戦う」という発想自体が現実政治から遊離した夢想でしかない」という批判はあった。それでも、先の参議院選挙において、沖縄で糸数けい子氏が野党共同候補として当選し、東京で川田龍

平氏が無所属で当選したことは、この運動の可能性を示すものであったといつていいかもしれない。共産党が全小選挙区で候補者を立てない方針に転じたのにも、この運動は一定の影響をもったかもしれない。

こうした二つの側面を背景に、今年になって「市民の風」から出されたのが、「今こそ、平和・環境・福祉・地方分権・選挙制度改革を柱に野党連合を結成し、政権交代を」という全野党議員にむけてのアピールであり、その促進のために企画されたのが「総選挙・政界再編と野党連合を考える市民の集い（仮）」ということになる。現在の政治状況下で、野党連合が現実的な問題になりうるのかどうかは疑問であるが、実行委員会への参加は野党連合への賛成・反対を問わないということだったので、最新の「風」を感じるつもりで顔を出した。

この日の実行委員会では、例によって議論は拡散し紛糾したが、とりあえず「総選挙・野党連合を考える市民の集い（仮）」（「政界再編」が削除されたのは討論の成果かも）

を六月に行い、「小林正弥、内田雅敏、上原ひろ子の各氏に加えて、民主党、共産党、社民党など、野党の議員経験者をパネリストとするシンポジウムを計画する」ということで合意を得た。議論の雲行きから、まだ一波乱も二波乱もありそうだが、まずは一歩前進といえるかもしれない。行きがかりとして六月までは付き合うことになりそうだ。

（東京 牧 梶郎）

大盛会だった「九条の会」

二月一七日、新宿牛込の区民ホールで、「女性戦争を決して許しません」という「女性九条の会三周年記念女性のつどい」がありました。澤地久枝さんの講演と市原悦子さんの朗読、中川美保さんのサキソフォン演奏で、「やっぱり平和がいいね。だから九条です！」と謳い上げました。

大変な盛況で、会場に足を運びながら入場できなかった人もありました。電話でおことわりの方は数知れず、もう少し広い会場がとれなかったかと、残念でした。著名人や名優を間近に見る、といった、軽い期待で来た人びとも、

会場に沸き立つ熱気に、平和を守る誓いを、胸一杯に溢れさせて家路についたことでしょう。

「昨日から今日、今日から明日へと、おだやかに、平穏に月日が進むこと」が、人にとって、女性にとって、どんなに幸せなことかと烈しく思います。この平和を守るには、ほんの少しでも僅かでも、平和のために心と体を使いましょう。（あごろ）の斎藤千代さんは八十を越えられました。私も「八十婆だから」と、テレビの前で憤慨しているのは、能がなさすぎます。僅かな歯車一つでも、平和へ向けて、孫・子のために力を添えましょう。

ふだんつき合う人びとに、平和のアピールをすることは、なかなか勇気のいるものです。「九条の会」の催しには、右と思っている人にも、柔らかに優しい声をかけてみよう、と、心に決めました。

「あごろ」を読んでいる方がたは、「今さら何を」とお思いとは存じますけれど、「九条の会」の一言が出しにくい交友なのです。苛酷な戦中戦後を生きてきた者たちは、若い（あるいは成熟した）（老成した）人びとの、平和をつなぐ行動に連帯いたしましょう。老人の知恵が青年の企画に貢献することがあるかもしれませんので。（東京 杉山次子）

語りかけたいあなたへ 71

大里知子

まなざし

人のまなざしがどんなに眩しいときでも、誰かと会って話をするとき、必ず相手の目を見て話をすることを長年のモットーにしていた私も、数年前からこの「相手の目を見て話す」ということが、だいぶ困難になってきた。

それというのは、脳性マヒ後遺症に伴う二次障害のため、頸ついで症による首から下、全身のシビレと締め付けで首を活発に動かせなくなったことと、前にも増して首の坐りが悪く、そのうえ車いすをリクライニングにしているため、身体が斜めになっていて視線がかなり上の方にあるからだ。

相手の顔を見て話せなくなった時、私は「なんて悲しいことになったのだろう」と、嘆くばかりだった。でも、近頃ようやく「こちらのほうがお顔がよく見えるので、どうぞ」と自分の車いすの真横になる席をすすめる気持ちの余裕が出てきたように思う。

たまに車いすの横にきた人に「あまり近くて恥ずかしい」と言われて「それは、お互いさまでしょう」と、一緒に苦笑してしまうこともある。

世間には私も含めて、いろいろな身体的理由から「したくてもできない」人がたくさんいると思う。そこで一つのことを、私からお願いしたい。

それは、ベッドや車いすでは自由に向きたい方向が向けないので、車いすやベッドの上にいる人に会う方は、まず第一に、相手の顔がよく見えるところへ行つて、言葉を交わしてほしい。

目と目を見合わせるということとは、なにも恋人どうしだけのものではないはず。どんな状況にある人にも大切なのではないだろうか。

(エッセイスト 秋田県鹿角市在住)

(Eメールアドレス fuusen@abeam.ocn.ne.jp)



和田典子著作選集

和田典子著作選集編集委員会編

学術出版会刊

A5判408頁 4800円＋税

研究と整理の お手本を示した先生

家教連(家庭科教育研究者連盟)創始者の一人で、元会長の、和田典子先生が亡くなられて、すでに二年が経ちました。

先生が七十歳はじめに乳がんを罹患されたとき、書斎の本棚の「赤いラインの背表紙は、執筆した本」と、うかがいました。遺言を聞かされている感じに、耳を塞ぎたい

思いだったことを、昨日のように思い出します。

亡くなられて数か月後から、当時、大学院生だった方たちが、書斎の整理をやって下さいました。

書斎に入って「整理とはこういうもの」と実感しました。——先生

生が活躍されたジャンルごとに、書棚が、見事に分類されていました。

和田先生は、都立戸山高校をこ退職後、いくつかの大学で講義をなさっておられました、講義内

容がノートにきちんと残されていました。組合の教研でのレポート、メモも、数多くありました。

著作集の巻末に、膨大な「和田典子著作目録」がありますが、資料は、この数十倍も、ありました。先生は、「事例研究から多く学ぶことができる」と、私たちに何度か強調されました。教研を大事になさっていた理由が、ここにありました。

和田先生の著作集

著作選集の編集委員は、後記のとおりです。

鶴田敦子さんが中心となり、著作選集が出版されました。

和田先生の生涯をかけたご研究

は、「家庭科の教科論」を打ちた
てることでした。

教科論の前提は、「家庭科は男
女で学ぶ教科で、子どもや地域を
見据えた自主編成」でした。

若い方たちに
ぜひ読んでほしい

今では当たり前のように思われ
ている「男女共学家庭科」は、和
田先生はじめ、多くの家庭科教師、
組合女性部、女性団体、市民など
の賛同と男女平等実現の取り組み
のなかで実現したものです。

〈家教連〉の、自主編成の学習
過程や、教授方法の多くは、和田
先生が理論化しました。

ぜひ、若い方たちに読んでいた
だきたい。そして、和田先生のも

年の夢を、さらにふくらませてい
ただきたい、と切望します。

(斎藤 弘子)

和田典子著作選集編集委員

井上恵美子(フェリス女学院大学文学部教授)

斎藤 弘子(家庭科教育研究者連盟会長)

鶴田 敦子(聖心女子大学文学部教授)

永井 好子(男女平等をすすめる教育全国ネットワーク)

朴木佳緒留(神戸大学大学院人間開発発達環境学研究科教授)

丸岡 玲子(国際婦人年連絡会常任委員)

吉村 始子(男女平等をすすめる教育全国ネットワーク)

米田 俊彦(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)

和田典子著作目録作成委員

良 香織(女子栄養大学栄養科学研究所)

宇津野花陽(お茶の水女子大学大学院)

小高さほみ(秋田大学教育文化学部准教授)



トヨタの闇

利益2兆円の犠牲になる人々

渡邊正裕／林克明著 ビジネス社刊

四六判 254頁 1300円＋税

広告宣伝費に年間一千億円をかけるトヨタは、マスコミ最強のスポンサーだ。活字メディアは広告と区別がつかない記事を書き、トヨタに媚を売り、引き替えに、

「口止め料」の広告収入を得ている。

トヨタ礼賛本ばかりの中、メディアが恐れるトヨタに踏み込んだのが、この『トヨタの闇』である。

トヨタの労働現場は、鎌田慧さ

んが伝えた『自動車絶望工場』の時代を、いまでも引き継いでいる。

レクサス・クラウンの高級イメ

ージと、四畳半・築四十年超のボロい寮に住む正社員。人を大事に育てるイメージと、勤務中に過労死しても、労災認定すらされない

正社員。性能がよいというイメージと、

実は販売台数よりリコール台数のほうが多い事実。生産台数

世界一のブランドイメージと、海外での活発なリストラや、反対デモ……。

モ……。

トヨタの利益二兆円は、これらの犠牲の上に成り立っている。

世間に伝わってこない事実につ

いて、著者は『ブチ北朝鮮』的な顔を持つ、(日本が誇る世界企業トヨタ)の「二面性」と分析する。

二〇〇二年二月、内野健一さん(当時三〇歳)がトヨタ堤工場で亡くなった。一か月の残業が一四四時間にも達し、それに加え、創意工夫提案、QCサークルといった数かずの「賃金のつかない業務」による過労が原因だった。

妻の博子さんは、労働基準監督署に労災を申請したが却下。国(実質は労基署)を相手に、過労死を認めさせる裁判を起こした。

「夫のがんばりを認めてもらいたいです。こんなにがんばっていただんだ、と。それだけを認めてもらいたいです」と語る博子さんの五年間の闘いは、本書第二

章「トヨタの社員は幸せか——職場環境の実態」のロングインタビューに詳しい。

この裁判では、会社側のトヨタ社員が「残業でなく雑談だった」と証言。トヨタは、「国に控訴しないよう働きかけて」という博子さんの要望書さえ受け取らなかったが、本著出版後の昨年一月、名古屋地裁は、内野健一さんの死を過労死と認定。国は控訴せず、判決は確定した。トヨタが「自主活動」と主張してきた仕事も「業務である」と認められた。

トヨタの常識である「長時間労働、無償労働」を認めなかった判決の意味は、現在、トヨタで働く人たちにとっても、極めて大きい。「これで過労死じゃないなら、

夫はなぜ死んでしまったの？」という博子さんの切なる思いと行動が、「世界のトヨタ」の働き方を変える力となった。

過労死裁判にも一貫して会社寄りだったのが「トヨタ自動車労働組合」（組合員約六万五千人）だ。トヨタ批判者を徹底的にマークしつづけた。

その「御用」組合に對抗し、二〇〇六年、組合員一五人の闘う労働組「全トヨタ労働組合」が結成された。下請けや孫請け企業の組合員、外国人、パート、期間工の人たちも加入できる、「真の組合」だ。若月忠夫委員長が「新組合を結成しなければ」と思ったきっかけは、ある四十代社員の首吊り自殺だった。既存組合は組合員すら救

おうとしなかった。さらに、「不穏分子」の若月さんを応援する者のあぶり出しまで行なってきた。

若月さんらが組合活動を始める時、トヨタ人事部による監視活動が始まり、「トヨタの思想統制」が、正当な組合活動を制限する。

「労働組合運動は国づくりの視点を持って社会的責任を果たさなければならぬと思います。トヨタが変われば日本が変わる。だからがんばるのです」と、若月さんは語る。

しかし、日本経済新聞は、『トヨタの闇』の書籍広告を拒否しつづけている。「見方が一面的ではないか？」が広告拒否の理由だ。隠され続けているトヨタの事実がこの本にある。（山中登志子）

みなとまのお年賀状から



今年もよろしくお願いします
〒182-0033 調布市富士見町3-21の1-502 寺田 裕子



愛知県西尾市今川町石橋五九二
ボランティアの仲間と
のびのび文庫
岡部 栄美香
TEL 〇五三三五六七五四六



迎春

2008年1月1日

Women's Spiritual Powerを活かす
キャリアアドバイザーとともに

これからも女性の躍進と女性に開かれた企業を応援しています
コミュニケーションをいっしょにつくりたい

- こんなことが得意です
- 女性の働きやすい企業評価の経験と
クライテリアを持っています
 - メンター育成、リーダーシップセミナー
(社員・自治体職員向け)

特定非営利活動法人
女性と仕事研究所
Women & Work Research Center

〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-17 田中ビル4F 代表 金谷千鶴子
TEL 06-6341-3516 FAX 06-6341-3517 理事、職員一同

二〇〇八年 正月

風



土井たか子

アジア人権基金

赤坂スクエアビル六階のB
電話 〇三三五七〇五五〇三

平塚 東京 港区 赤坂二の十の十六

新年あけましておめでとう
年金公約、防衛増強、食品偽り表示など、言葉も政治も風まかせ。そのときどきに言いのがれ。こんな偽り風はお断り。今年はずます元気に平和憲法行脚。風おこしです。どこかでさつとお目にかかれるでしょう。

あけましておめでとう



2008・1・1 赤坂ヒロサ



ニュージーランド 2007

迎春

この世にはもう何の未来もありません
でも「諦め」と云う文字は私の辞書から
消えています
平和の憲法を生き書きしましょう
お互いに元気で!

2008年 元旦

最後まで「ハコタ」ない振り切
一諸に希望ある未来をあげ!

〒251-0045
藤沢市辻堂東海岸1-15-23
TEL-FAX 0466 (36) 8755
浮田 久子

謹賀新年

昨年中は
大変お世話になりました
本年も
宜しくおねがいします

尾崎憲子

平成二十年 元旦





力足

初詣は大神神社（三輪明神）を予定しています。御利益のお裾分けをしたいと思っています。お楽しみください。



あけましておめでとうございます
 昨年は大変お世話になりました。
 おかげ様で慶徳のリハビリも順調に進み、各地に
 ドライブ旅行も楽しめました。神様は私共に丁度
 良い人生をお与え下さっていると思う日々です。
 今年もどうぞよろしくお願いいたします。

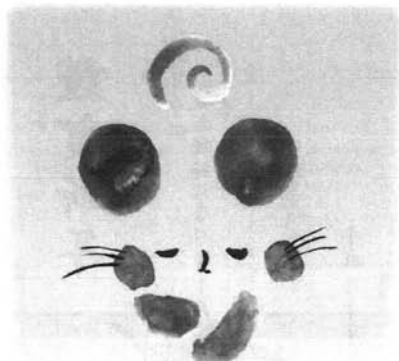
2008年元旦

〒941-0006 糸魚川市竹ヶ花45

金子磨徳 裕美子

TEL 025-552-3215

(英は2006年6月、出勤直後に脳梗塞で倒れ療養中)



謹んで新春のお慶びを申し上げます

のご健康とご多幸を心よりお祈り致し
本年もよろしくお願ひ申し上げます

平成20年 元旦

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1丁目5番地
東洋須田町ビル5階

東洋須田町ビル5階

NS 綜合法律事務所

弁護士 佐 貫 葉 子

電話 03-3251-0066

FAX 03-3251-0067

(自宅住所)

平112-0006 東京都文京区小日向2-29-9



幸頭に際し平素の以て人情に感謝
併に倍旧恩指導の交誼の程よろこ
び願ひ申す所あり
平成二十年元旦

平成二十年元旦

平成二十年元旦

小森靜子



謹賀新年

新しい年が素晴らしい一年になりますよう
皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り
申し上げます

平成20年 元旦

〒534-0023 大阪府都島区都島南通2-1-1 1417
電話(06)6925-3462

白井孝欣

謹んで新春の
ご祝詞を申し上げます

昨年中はいろいろとお世話になり
心よりお礼申し上げます
今年もどうぞよろしくお願いいたします

平成二十年 元旦



遠藤会計事務所

税理士 遠藤 雅章
職員 山本 一雅
同 章 ち

〒171-0022
東京都豊島区南池袋三-八-一五〇(九〇)
FAX 〇三-三九八八-〇一九八(代)



新年あけましておめでとうございます

皆様のご多幸をお祈りいたします
本年もよろしくお願い致します

高橋 美保

平成二〇年元旦





「松竹梅」 芥沢陸介 作

新年のお慶びを申し上げます

旧年中は、大変ご親切にご指導ご鞭撻をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。今年も宜しくお願いします。

二〇〇八年 元旦 小紫 スナ

新年あけまして おめでとーうございます

もんじゅ再稼働、再処理工場本格運転、横須賀原子力空母母港化と2008年は原子力をめくって大きな動きが集中します。こうしたときこそ、みなさんと集い、情報を交換し合い、力を出し合っていききたいものです。

いろいろば会議

- 1月18日(金) 18:30～ 第127回(於 たんぽぽ舎)
映像でみる地震と原発
小泉好延さん(市民エネルギー研究所)
- 2月21日(木) 18:45～ 第128回(於 たんぽぽ舎)
自然エネルギー・風力発電・世界と日本
井田均さん(市民エネルギー研究所)

たんぽぽ舎関連行事

- 2月2日(土) 13:00～20:00 (於 東京学院)
たんぽぽ舎19周年の集い
「地震と原発を考える」 島村英紀さん
「核燃料サイクル要・再処理工場」 梶田博さん
- 3月2日(日) 13:00～17:00 (於 東京学院)
『隠して核武装する日本』出版を祝う会

〒101-0061
東京都千代田区三軒町2-2-1
ダイアモンドビル
たんぽぽ舎 いろいろば会議

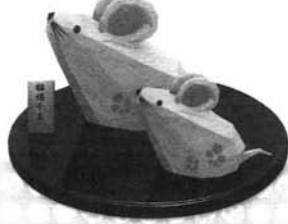


初春の
お慶びを
申し上げます

新しい年、新しい花を受け入れ
水はけ、土、おしなやかに
行きたいと思っております。
くれぐれも、ご自愛下さい。

長尾勢津代

平成二十年 元旦



あけましておめでとうございます
今年はどんな冒険と、豊かな寛ぎが
用意されているのでしょうか
心の踊る、新しい時代の息吹き
皆さまにも素敵な天使が舞い降りますように

手塚真

手塚 真 visualist
同野玲子 manga artist
やの 雪 thermist
赤城忠治 composer/musician

羽場樹里 遠藤美貴子
田村 史 渡辺 舞
宇野若菜

有限会社ネオンテトラ
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-21-11
代々木クリーンハウス 2-D

NEONTETRA Ltd.
Yoyogi Cleanhouse 2-D, 2-21-11, Yoyogi
Shibuya-ku, Tokyo, 151-0053, Japan

Phone 03-3374-8864 Fax 03-3374-8863
URL www.neontetra.co.jp



NEONTETRA



A HAPPY NEW YEAR

友と訪ねた直島「家プロジェクト」
瀬戸内海の春風に吹かれて

晩夏の松本サイトウキネンオペラ
小澤征爾の「スベードの女王」

銀杏が黄金色に輝くキャンパス
大隈講堂が重要文化財に

鎌倉で過ごす3度目の冬
「山の音」に耳を澄ませながら

2008年元旦

〒104-0061
中央区銀座7-12-5 貝新ビル4階
アテナ法律事務所
電話03-5550-3611

林 陽子

女性解放のときは来た！
すべての女性と男性が解放される時だ！
胸をはって進もう 私たちは社会の主人公だ

今年もよろしくお願いします



婦人民主クラブ全国協議会
(代表・相模原市議 西村綾子)
〒229-0032 神奈川県相模原市矢部2-2-4
TEL/FAX 042-757-4785

謹賀新年

二〇〇八年元旦

2008 元旦

新年のごあいさつを申し上げます



2008.5 第8回メッセ
9系世界会議

平和で平等な社会の実現に向けて、
ともに歩みましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ふえみん 婦人民主クラブ

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-18-301
TEL 03 (3402) 3244/3238 FAX 03 (3401) 3453
eメール femin@jca.apc.org URL http://www.jca.apc.org/femin/



観不知展望台にて 07.9.13

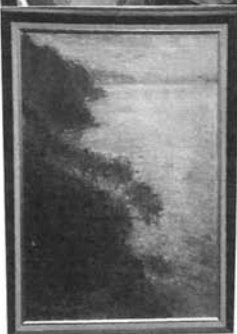
迎春

2008年 元旦

きりぎりす
鳴くや霜夜のさむしうに
衣かたしき ひとりかも寝む
(藤原良経)

アトリ工給夢主宰
増村秀一

糸魚川市川島1984 TEL. (553)2585



2007 市展「夕照」20号

あ



ぐりとぐら

2008. 1. 1

「戦争はダメだよ」「ん、9条守らね!」

〒468-0061

名古屋市天白区八事天道706

山下智恵子

おかげさまで20周年

東京演劇集団風

レパートリーシアター
KAZE

〒164-0063 東京都中野区東中野5-2-4
Tel. 03-3363-3281 ex. Fax. 03-3363-3045
E-Mail: info@kaze-net.org
URL: http://www.kaze-net.org/



迎春



浪速島、海老岩水仙餅にて

本年もどうぞよろし
お願ひ申し上げます。
皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます

2008年1月1日

森 34子

二〇〇八年 私は 私たちは

——お年賀状のメッセージから

昨年は、著書『二人三脚六十年』の出版で、大変お世話になりました。

思いがけない反響にベンの恐ろしさを知りました。どうぞお体お大切に、ますますのご発展を祈ります。

(東京都世田谷区 青野婦佐子)

*

年頭にあたり、旧年より少しでも進歩が見られる世界になってほしい、と祈念いたします。

私自身は、年ごとに加齢現象の増加を感じながらも、いまだ介護対象でなく「自立」状態を保ちつつ、米寿の年を迎えられたことを幸に思っております。社会的活動や旅行などは年々減少しておりますが、それでも、旧年春には

俳句会仲間と宮崎県へ吟行し、また秋にはアビタシオンの友人たちと紅葉の山陰地方へ二泊三日の旅を楽しむことができました。

本年も前向きに生きたいと思っております。(福岡市博多区 秋枝蕭子)

*

花の絶えない平和な世界を。
九条くじょうさんと仲よく。

(愛知県一宮市 浅野美和子)

*

圓滿具足

この世の中がこのようになりますよう、本年もよろしく願っています。

(東京都武蔵台 石川瑛子)

*

昨年七月、義母伊藤多嘉子が九十五歳の天寿を全うしたため、年頭のご挨拶を欠けいたしましたことをお許しください。旭川での戦前・戦中の子育て、

親戚や孫の世話など、苦勞も、楽しみも、また趣味も多い人生でしたが、無宗教で見送ってほしいと言い残し、自分の信念を貫いた義母でもありました。

当方、昨年はClara Zeckm. 誕生一五〇周年記念シンポでベルリンへ行ってきました。今年は没後七五周年で、かつ〇PE研究の四年間の科学研究費のまとめの年度に入ります。

同時に、院生指導も、教師生活も、最後の一年を迎えますので、教え子との日々を一日一日大切に過ごし、来年

の退職の日に備えたいものと、念じて
おります。(東京都八王子市 伊藤セツ)

*

みなさまお元気ですか。

〈あごろ〉は、穏やかな新年を迎え
たのでしょうか。それともドラマチッ
ク？

多忙につき、なかなか協力できませ
んが、いつも見守っています。

(東京大田区 伊藤登美子)

*

青い地球と、九条を守るために、子
ばり強く爽やかに行きたいと思いま
す。つづけていくには楽しくやらなく
つちやあね。(岡山県新見市 伊東朋子)

*

新しい年をいかにお迎えでしょうか。
私は昨年高齢者の仲間入りをしまし
た。二〇〇二年以来、人間関係学科長
を経て人間関係学部長となり、学内行

政の渦中にあり、自分を振り返る余裕
もない時期が続きましたが、六十五歳
の誕生日は、おかげさまで、比較的、
平穩に迎えることができました。

和光大学では、昨年、人間関係学部
を改組し、現代人間学部が発足しまし
た。私が所属する現代社会学科は、定
員五十名の小さな学科ですが、順調な
スタートを切りました。ジェンダー・
フォーラムも、数年来の念願がかない、
大学の正規機関として再出発しました。

日本女性学会は、昨年の「バックラ
ッシュをクイアする」に続いて、今年
は「男女共同参画と格差社会」をメイ
ンテーマに、大会を青森で開催する予
定です。

今年の山川菊栄賞は、中村桃子さん
の『女ことばはつくられる』に決定し、
一月二七日に贈呈式を行います。
以上は、私が現在代表を務めている

組織の現状報告です。それぞれ、ご支
援いただければ幸いです。本年も旧年
同様のご交誼をよろしく願ひいたし
ます。(神奈川県川崎市 井上輝子)

*

機関誌『光と陰』7号(一九五三)
一九五九年)のまともに、取り組んで
います。少しずつ新潟の女性の動きが
見えてくるのは楽しいです。

*

(新潟市 新潟女性史クラブ 植木知枝)
315号、ちょうど十二月三一日に
つきました。上原さんの社民への提言、
あたっているな、と思います。

*

(東京都練馬区 上之園幸子)
八十路も半ばを迎えました。
今年も新年のご挨拶を申し上げるこ
とが出来まして、心から嬉しく思っ
ております。

良い一年でありますようにと祈っております。(兵庫県篠山市 内山茂子)

*

昨年は、ケニヤで開かれた世界YWCA総会にオブザーバーとして参加、同窓会夏季セミナーの開催、国連NGO国内婦人委員会創設五〇周年記念大会の主催、同委員会年間主要行事のエジプト、パレスチナ、ヨルダン女性との交流のため、各国一日半から二日の分刻みのプログラムに参加。世界精神保健連盟の学会出席にかこつけて、ミネソタおよびヴァージニア州在住の友人を訪問、心温まる日々を合計約十日間満喫。日本初の女性外交官山根敏子さん(津田塾卒)の没後五〇年を記念する集会の企画・開催等であわただしく過ごしてしまいました。まさに「忙しく、心を亡ぼす日々であったかと恥ずかしく存じます。

でも健康を支えられ、多くの方のサポートによって、無事、新年を迎えることができたことを感謝しております。

(東京都文京区 江尻美穂子)

*

新春を迎え、一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

昨年から目が悪くなり、本も読めないし、字もかけません。ずっと物理療法をしています。足も悪くなり、杖をついて歩く状態で、外出できません。もう生活を自立することが無理です。

老人ホームに入るつもりです。お元気で。(中華人民共和国武漢市 袁希)

*

テレビニュースを見ると、腹の立つことばかり。いやな世の中になりました。それでも何とかあるべき姿にしようという女たちは、そこで、元気いっぱい!! 今年もしっかり頑張りま

しょう。(茨城県日立市 太田美恵)

*

衆議院選挙の年になるでしょう。

平和憲法を守り、真の民主政治確立のため、頑張ります。

(神奈川県横浜市 大槻勲子)

*

二〇〇七年は、世相をそのまま映す弁護士の仕事を中心に明け暮れました。二〇〇八年は、仕事を誠実に行いつつも時間を生み出して、読書と「書く」ことに、こだわりたいと思っております。(愛知県名古屋市中区 大脇雅子)

*

昨年は、大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

「次の内閣」環境大臣として、地球と人類の生存をかけた「地球温暖化問題」に取り組んでおります。

この一年が健康で良い年になります

ようお祈り致します。

(宮城県仙台市 岡崎トミ子)

*

無病息災。二〇〇七年の私の生活は、何事もなく穏やかに過ぎ越しました。そろそろ穏やかな日々が有難いお年頃になったみたいです。

とはいえ、丸亀市男女共同参画推進条例が制定された二〇〇七年は、忘れられない年となりました。条例制定は一つの通過地点だと思いつつ、冷静ではいられない喜びで、いっぱいです。

たくさんさんの友情に支えられた十五年という長い時を、今、感慨深く噛み締めています。つくづく……私って幸せ者だなあって、ただただ感謝です。

ここに至るまで、直接間接にたくさんの方がたの心配りをいただきました。優しくも厳しくも、温かい気遣いに満ちた応援でしたよね。心底有難く……

深謝あるのみです。

ここで手を抜かず、二〇〇八年も私に出来ることをやり続けなくてはイカン、と改めて気持ちを引き締めています。

(香川県丸亀市 岡本恵子)

*

315号「……他者に要求する前に、いまなすべきことは何かを模索したい……」の言葉にいたく感動しています。今年もどうぞお元気でいらして下さい。

(東京都国立市 小川宏美)

*

昨年はトルコへ出かけました。あこがれのイスタンブール、ボスポラス海峡、名にし負うカッパドキア、トロイの遺跡等々堪能しました。

でも最も印象的だったのはトルコの人たちの日本最前でした、至る所で「ヤポネ?」と声をかけてくれますので「イエス」と応えますと、握手、握手でし

た。特に子どもたちが底抜けに明るく元気いっぱいなのが印象的でした。

十月にはウズベキスタンへ行ってきました。タシケント、サマルカンド、ブハラ等のオアシス都市を周り、アム・ダリアは浮き橋を歩いて渡りました。州や都市の独立性・自立性が高いようですが、国としての発展は、これからようでした。

(東京都板橋区 小川俣子)

*

あごろ315号ありがとうございます。いつものご苦労、心より感謝しております。

世界のすべての子どもたちに、平和な生活が一日も早く訪れますように、と祈ります。

(神奈川県藤沢市 蠣崎孝子)

*

バックラッシュの嵐はやつとしますま

ったようですが、目立たなくなつた人たちは力を蓄えようとしているようで、いやですね。私自身は歩きにくくて、しゃべりにくくて、情けない状態ですが、できることはやりたいと、がんばっているつもりです。

(東京都世田谷区 梶谷典子)

*

「市民の政府」とは、考えるだけでも、うれしいですね。こちら岩国は、基地をかかえ、容認可否をめぐる市の長選が二月十日。沖縄から本土・岩国に巨大な基地がくることは、日本全土が戦場化。日本は困つた国ですね。しかし半分は女性のせい。

(山口県岩国市 勝又みずえ)

*

今年ほど年賀状を書くのが心重い年は無かつたように思います。

昨年、憲法九条を改悪して自衛隊を

軍隊として戦争ができるようにするために国民投票法が制定されてからは、早ければ三年後に予定されている改悪法国会決議までの一刻一刻は、主権者ひとりひとりにとって、人を殺す側に立つのか、互いを尊重しあう真の平和と民主主義を創造する側に立つのか、生き方の選択が厳しく問われます。

長年にわたつて、地域の活性化と結びつけて制作されてきたNHKの大河ドラマも、ほとんどは、戦争にあけくれ権力支配のため人を殺す側に立つ人間の愚かさを《英雄》として描き、その犠牲となりつづけてきた人びとの悲惨さを《当然のように》描いていることに気づかされます。見る者が楽しめるように作られているので、いつのまにやら、戦争は、人の世がつづく限り当たり前のことだと、多くの人びとに、^{いくさ}「戦世への諦め」の気持ちを用意し

植えつけているように感じられてなりません。

マスメディアが日々伝える報道も、世界中で毎日続いている戦争が誰によって引き起こされ、誰が戦争によって大儲けをしているかについて、真実は報道せず、人びとの犠牲と悲しみ痛苦の姿をただ報道することによって、戦争とその悲しみに人びとの感覚を慣れさせ麻痺させる役割を果たしているように感じられます。

このような「戦争教育文化」が大量に延々と作られている限り、戦争は、しかたないと思う人は減らないでしょう。今年は、人びとが互いを尊重し愛する力を育てる「いのちの文化(教育)」創りへと、大転換の一步が始まることを、心から祈念いたします。

(東京都豊島区 金住典子)

*

長女が結婚し、町田市に移りましたので、東京に行く機会も増えるのでは、と楽しみにしています。

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

(鹿児島県鹿児島市 皮籠石久美子)

*

戦争がなくならない世界ですが、希望は捨てません。

(大阪市朝日新聞論説委員室 川名紀美)

*

九〇歳までの八人が、十人十色でワイワイ暮らしています。

(鳥取県鳥取市 岸本みすず)

*

私は昨年たった一人の兄を亡くしました。物言えぬ兄と、ただ見つめあって涙を流しあう日々でした。

一方、母はこの一月一五日に満一〇四歳の誕生日を迎えました。昨年

の暮れまでは、私が「何か話して」と催促すると「あなたが問題提起をすればしゃべるけど」と理屈のひとつも言っていたのに、半月後には娘の私に向かって「あなたはだーれ？」と訊くほどの認知症の急進行ぶり。おまけに巷には「性教育の暴走」とかいう本も出現して、文中で私はめつたぎりに。

で、私はチャップリンに訴えました。「こんな時はどーしたらいいの？」と。すると彼はこう答えました。

「もともと人間の運、不運などというものは、空行く雲と同じで風次第。わたしは(自分の人生で)不幸にも、そうひどいショックを受けなかったし、幸運にはむしろ素直に驚くのを常としたんだよ」と。(チャップリン自伝) 一九八七年 新潮社)

わたしも、いつか幸運がくると信じて、アーニ出版で働き続けます。どう

ぞエールを送ってくださいね!

P. S. 与野党逆転しても、私の「性教育およびジェンダーの平等」は、石原都政の間はまったくダメ。いま「七生養護学校(ころとからだの学習)裁判」の傍聴に通っているけど、被告側(都教委、都議、産経新聞)が「不適切!」と叫ぶものは、すべて私の作品です。

性教育の本や教材を没収するとき都議は「オレたちは国税庁だからな、最後の一円まであばき出すぞ」と威喝したそう。なんと品位のない政治家たち!

DV防止法にもクレームをつけてるんですってね。どうなっちゃうの。要は、行政のダイナミックな支援がなければ、おんなたち・子どもたちに笑顔は戻りませんよね。

「性を語る会」の次回シンポジウムは、「婚外子差別裁判」報告です。三月一日、一三時から一七時です。

スウェーデンの友人からルポを送ってもらいます。六〇・五%が婚外子なんだから、あの国は。

(東京都世田谷区 北沢杏子)

*

二〇〇八年は衆議院選挙の年、金がらみの悪政を断ち切り、平和憲法を守って、「平等・福祉・政治浄化・世界恒久平和」の、婦人参政権獲得運動の四目標の実現をめざします。

戦後六三年に及ぶ、師市川房枝先生の運動の志を、次の時代に引継ぎ、女性みずからの手で、いのち、くらしに根ざした真の政治を求め続けます。

(東京都狛江市 紀平悌子)

*

のんびり始めた「石原やだ、もう嫌だ」運動は、昨年春の都知事選で、浅野史郎さん擁立につながりました。雑誌「世界」や「あごら」に、春の夜の

夢の顛末が載っています。ご一読下さい。子どもたちも、うさぎたちも、すこぶる元氣。うさぎは只今三羽。

そして、八ヶ岳の宿が、お陰様で今年は二〇周年を迎えます。この一年は真面目に営業するつもりですので、ぜひお越し下さい。無数の星が山々の頂に輝く厳冬期、若葉が目眩しい春、涼風と冷たい水が心地よい夏、色鮮やかな紅(黄)葉落葉の秋、四季折々の、美しい自然と共にお待ちしております。

「市民参加の政治のあり方」や「9条」が話題になる、変な宿屋です。

(東京都世田谷区 楠 典子)

*

二〇〇八年が始まりました。今、一日二四時間を自由に使える生活です。廊下の一面を喫茶「苦楽多」と称し、ガラス越しに「純日本庭園(?)」をながめながらモカを味わっています。

黒瀬川に霧が立ちこめると、自転車に乗って撮影に駆けつけます。昼には、隣町の温水プールで颯爽と(?)クロール。この贅沢を記録に残そうとして、パソコンに向かうことも……。そんな毎日です。(広島県呉市 倉田侃司)

*

政令市・新潟となりました。全区の「区役所だより」をウォッチングし、ジェンダー視点の欠如に男女共同参画施策主流化の遠さを実感しました。

新潟の女性問題解決を標榜した「新潟ウイメンズ企画」十五年間の活動を終結し、密度の濃さを改めて思い、関われたことに感謝しています。

若い、女、平和など、気になります。が、ゆるやかに一年を始めます。

(新潟県新潟市 倉元正子)

*

昨年はいろいろと嘆かわしいニュー

スが多かったです、今年はいいい年になると思います。心からそう願っています。(千葉県市川市 栗田恵津子)

*

夫も私の実父の逝った歳(64歳)になりました。時には夫婦喧嘩をしながら、今日まで生きてきました。子どもたちのためにも『憲法九条、二五条』を生かすため、今年もがんばります。(広島県安芸郡 栗原君子)

*

不知火に撫で撫でダンスの童子たち
(福岡県中央区 河野信子)

*

今年もささやかながら、男女平等への雰囲気づくりに歩んでゆきたいと思っております。ご指導よろしく願います。

ますますのご発展を祈念いたします。
(新潟県岩船郡 小池寿哉)

*

過去に目を閉ざすものは、結局のところ現在を見ることができない——
一九八五年五月八日ヴァイツェッカー
西独大統領演説『荒野の40年』
本年もよろしく願ひ申し上げます。

*

(東京都日野市 古莊斗糸子)
お手伝いを、と思いつつ、自分の仕事で手いっぱいだった。今年も充実した誌面を……。

*

(東京都府中市 小林育子)
昨秋、本学の総長セクハラ事件(女子職員への)で大学建て直しに追われております。
「あごら」創立三五周年、おめでとうございます。

*

旧年中は何のお役にも立てず、申しわけございません。「あごら」の皆様
の頑張りに驚嘆いたして居ります。
私こと、長男家族はボストンで元気に過ごし、次男に十年目にして子供誕生。娘も結婚を望んでから十年目?にしてゴールイン。母は米寿を迎え、昨年はホッとした年でした。本年もよろしくお交わりのほど お願い申し上げます。
(東京都港区 斎藤美栄子)

昨年の区議会議員選挙ではお騒がせしました。再び区議会で「24時間福祉のまち」をめざして、元気に活動が続けています。格差社会の解消は大きなテーマです。だれもが安心して暮らせる地域福祉の仕組み作りに、取り組んでいきたいと思ひます。今年もよろしく願ひいたします。

いつも「あごら」をありがとうございます

います。希望の生まれる年にしたいですね。
(東京中野区 佐藤ひろこ)

*

一筋のほのかな光の見える年になりますように。

(東京都葛飾区 しま・ようこ)

*

三度目の挑戦で、ようやく都留市議会議員に当選し、議員活動の中で見えてきた課題と奮闘中です。議会改革の重要性を実感しています。めでたく還暦を迎えましたが、あまりのレベルの低い議会に、とまどいながらの議員生活です。「男では本当の政治はできない。改革はできない。」とつくづく感じます。

県内外の女性議員と連絡をとり、共に学びながら、力をつけて行くネットワークが、今の私の大きな力です。少しずつ、少しずつですが、市民意識が変わってきました。

(山梨県都留市 清水絹代)

*

豊かなお正月を全ての人がとへ……

豊かで優雅なお正月を誰でもが迎えられる良い筈です。その為にも、

①真に平和で差別のない自由な社会であること。

・憲法改悪絶対反対！

・非武装中立の日本を！(脱原発、非武装、不戦、非核、護憲、反安保・反有事法制・反テロ)

・教科書書き換え是正

・いらんぜよ天皇制、住民基本台帳ネット

・良心の囚人の釈放、政治囚に公正で速やかな裁判。全ての囚人への「拷問死刑」の廃止を！

・男女平等 ジェンダーセンシティブを！

②搾取が無い社会であること。(あえ

て社会主義へのラブコール)

・額に汗して働く者が主人公の社会を！

NO貧困格差(ワーキングプア)

・ゴミ、資源、エネルギーを考えれば計画経済しかない！

・少子化社会、マイナス成長社会大歓迎！
等が、とりあえず最低条件。

今の社会、生活のあり方を見直し、スィンクグロバル(地球規模で考え)アクトローカル(足元で実践)で。

(山形県尾花沢市 菅野真治)

*

産院の廃業が多く、心を痛めております。

干支の始まりの今年。子産み子育てに暖かい陽が当たりますよう祈念しております。

近世日本産科学の祖本で、世界に先駆けて正常胎位を記述した賀川玄悦の『産論』と同玄迪の『産論翼』を、同志で学

習して参りました。完訳にはほど遠いと存じますが、訳註をつけ、現代語訳を『平成版 産論・産論翼』として出版いたします。御高覧頂き、御叱正を賜りますようお願い申し上げます。

(東京都新宿区 お産の学校 杉山次子)

*

今年こそ「夢」を実現したく思います。
(東京都世田谷区 鈴木光子)

*

あごろ誌にいつも心励まされております。斎藤様のご健康、心よりお祈り申し上げます。

後期高齢者の領域に、私、入ってしまいました。

(富山県上市市 高木栄子)

*

真夏の太陽を浴びて赤々と実ったとうがらしが、台所では白菜に抱かれて風味を醸しています。

机上には、わがまちの女性史の昭和戦中編が綴られ、また日本を軍国主義に変えてしまった無謀な戦争への歯車に組み込まれ、あと何か月後には戦地へ赴くことを認識せざるをえなかった勤労学徒の記録などが並んでいます。

お互いに八十路の坂を語り合いながら歩き続け、過酷な戦時体験者として改めて平和の尊さを祈念し、皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

(東京都府中市 滝島豊・典子)

*

「問題は過去を克服することではありません。後になって過去を変えたり、おこななかったことにするわけにはありません。過去に目を閉ざすものは結局現在にも盲目となります。」

非人道的な行為を心に刻もうとしないう者は、またそうした危険に陥りやすいのです。」(ヴァイツェッカー元独大

統領演説「荒れ野の40年」より)

嘆かわしい世の中です。この国の在り方です。今年もどうぞお元気で活躍を！ (東京都世田谷区 田代信子)

*

「あごろ」の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

半世紀以上も前に、私どもは「起て飢えたる者よ、今ぞ日は近し、さめよ我がはらから……」などと労働歌(インターナショナル)を高らかにうたつて闘志を燃やしたものです。この言葉はまだ死語ではなかったようです。

今や三人に一人は非正規で働かざるを得ず、しかも、まともな処遇はされず、人間の尊厳すらもおびやかされるような状況の中で、立ち上がり闘っている労働者たち――。

戦後の労働運動を経験した私どもにとって、これこそ本ものの労働運動と

いう思いです。心から、支援し、エールを送っています。

(神奈川県川崎市 多田とよ子)

*

昨年も、皆様に支えられ、大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

昨年の反省を今更言うのは、チュウんだ、チュウんだ、と、ネズミに笑われそうです。で、今年のモットーは、『笑顔と闘争心』でいきます。つい、楽な方へ流れがちな自分との闘いは、心して掻き立てないと、消えそう。そのサブリメントは、コンサート、野球観戦などなど。

今年も、息抜きを大切にしながら、平和、人権、環境にかかわり、ぶれな行動をしたいと願っております。

ずいっと会員ですが、年賀状を出すのは初めてです。

今、NPO法人に所属し、指定管理者として母子福祉センターの運営をしています。(福岡県福岡市 田辺義子)

*

昨年中はいろいろとお世話になり、有り難うございました。

本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年来から、「安心して老いを托せる地域」をめざして、高齢者の居場所づくりに燃えています。

(富山県高岡市 谷内清子)

*

今年は、医院を開院してから十年、引越しをして三年になります。

安定した部分とマンネリになった部分とがあるでしょう。いろいろと気配りしつつ、今年もボチボチやればと思います。どうぞよろしく。

(京都府京都市 塚崎美和子)

*

「詩は、こころざしだよ」深尾須磨

子さんの肉声が今も耳の底から聴こえてくる。新宿柏木のご自宅で夕食をご馳走になり、辞去する寸前の暗い玄関口。戦後間もない冬の夜の記憶。

「記憶とは、過去に対する絶えざる書き込みである」とはベンヤミンのことだが、想起と絶えざる書き込みが生の証か。

年々歳々花相似タリ、年々歳々人同ジカラズ

すでに多くの緑者の死を見送りながら、年ごとに強くなる想念がある。

「戦争は、きのう終わったばかり」。なおご交誼のほどを。

(東京都杉並区 寺澤 正)

*

札幌に引越しました。それまでの活動に一応の区切りをつけたところで疲れが出てしまい、生活に慣れ体力を

つけるだけで精いっぱい。ヒグマのように冬眠中です。でも〈あごろ〉が届くと目が覚め身が引き締まります。春になったら、できることをしていきたいと思っています。

（北海道札幌市 登石知子）

*

いつも果敢なメッセージ発信、ごく労さまです。励まされ、背筋を伸ばしています。ゆさぶられている「福祉現場に在ること」で、見えてくることをも諦めずに発信しつづけます。

（東京都調布市 外口玉子）

*

お元気で新年をお迎えのことと存じます。今年こそ、私たちが共に望む方向へ、政治を転換させていく、大きなうねりを巻き起こして参りましょう。今年も益々ご活躍くださいませ。

（東京都新宿区 富山洋子）

*

昨年は大阪と東京での「記念講演会」で大変お世話になりました。参加してくださった方がたの元気なお姿を見て心から嬉しく思いました。私も手術後すっかり元気になり、ありがたく毎日を送っておりました所、十二月四日朝、突然のボヤで家屋の一部が焼けました。年末はその後始末で大忙しで賀状がおくれました。でも家族は皆無事です。皆様の明るく幸多い新年を祈っております。

ホームページ「中津燎子の英語未来塾」
<http://www.nakatsu-miraijuku.com/>

「中津先生のエッセイ」で、昔戦争があった時、連載中！

（大阪府大阪狭山市 中津燎子）

*

昨年末、不登校新聞社の企画の「大人も学力テストをやってみよう」小学

生国語B」に協力し、小学六年生に選ばれること八か月、学力テストなるものを受けました。

学力格差を小学生のうちから認識させるために、自分は勉強が出来ないんだと確信させるために、学力テストが行われ、その出来ない人たちの受け皿を軍隊とすれば、敢えて徴兵制度を採用なくても、アメリカのように兵士が集まる……、旨の話を聞いたとき、変に納得できました。

そんな中でも居場所（じゃがいも）は、不登校の人や、下校後の人たちが毎週楽しく利用してくれています。

この子たちや、私が持てるかも知れない孫たちの将来に、軍靴の必要がないよう、諦めないで頑張らなくてはと、改めて決意しました。

北海道函館で暮らす息子は28歳になり、職場に過剰適応気味で働いていま

す。娘は25歳で七匹の愛猫の世話や看護を楽しんでおります。

十年ほど前「ハルモニたちの絵画展」をやり、いつか「ナヌムの家」で元従軍慰安婦さんたちとお話したいと、ハングルの勉強を始めましたが、実現は難しいようです。

どうぞお元気で新しい年をお過ごし下さい。(新潟県上越市 南雲和子)

*

昨年は佐藤が体調不良のため会社を退職してしまいました。今は、自宅療養中ですが、回復には少し時間がかかりそうです。同い年なので自分も健康に気をつけないといけない年になったと痛感しています。皆様もお元気で!! (神奈川県横浜市新見(佐藤)麗子)

*

〈あごろ〉の皆様には、新しい年も健やかに迎えられたことと、お喜び

申しあげます。

夕陽丘女性史グループは、去年の十一月二三日、天王寺区の夕陽の美しい丘で、故澤田和子さんの申し送り通り、解散式を行いました。発会二五年間の学びを生かし、それぞれの人生を歩み出しております。

どうぞお元気で、益々のご活躍とご発展をこころより願っております。

(大阪府東大阪市長 西原東洋子)

*

昨年は参院選で野党が大勝しましたが、憲法改定が主たる争点ではありませんでした。

日本が海外で戦争をする国にならないために憲法九条二項(戦力を保持しない。交戦権を認めない。)を守る政党が次の衆院選で勝つて欲しいと願っています。

(愛知県名古屋市長 二宮純子)

*

年ごとに、日本だけでなく、地球の未来を描けなくなる状況に、素直に「おめでとう」をいうことができなくなっています。

昨年は、義母が一〇三歳の天寿を全うした年でもありました。一人暮らしで、収入は老齢福祉年金のみでしたが、多くの批判のある介護保険制度に最大限、助けられました。

五度の認定を受け、ケアマネージャーは的確な介護体制を組んだばかりでなく、たびたび様子を見にきてくれ、介護のアドバイスをしてくださいました。時間制限はあったものの、親身にお世話してくださったヘルパー(主婦の方々)、十二時と三時の夜間訪問(若い男性)、電動式介護ベッドの貸与、車いすは、本人の状態に合わせて何度も交換してくださいました。医師の訪

問診療、看護師の常時派遣、四人体制の入浴サービス。プラス全員六〇代の七人の子どもたちは交代で介護にあたりました。

実に人手のかかった四年間でしたが、最後まで自宅で過ごすことができました。義母は、日々昔に戻り、実母を慕い、故郷に思いをはせるようになっていきしましたが、「教育勅語」を暗唱できたことには驚きました。肉体は少しずつ衰え、死に向かつていきました。最後まで周囲への感謝を忘れず、明治女性の生きざまを見せてくれました。

(東京都清瀬市 野々村恵子)

*

九条の理想を世界に。

日本国憲法第二章戦争の放棄第九条
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武

力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

(神奈川県逗子市 橋本 勝)

*

私にとって、昨年は様々な出来事が重なった一年でした。二月に左眼白内障手術、五月には右肩腱板再建手術で一か月の入院、その後四か月のリハビリを経て、少しずつ右腕の自由が戻ってきたところです。父が弱り始めてから亡くなるまでの過程を見たことで、自分自身の老化と死についても考えさせられました。体力・気力の衰えにも節目があり、八十歳を越えるのは大変だと実感しています。六十歳を前に、いくつかの故障を修理した私は、さしずめその節目にあるのかもしれませんが。

短大の状況は非常に厳しく、賞与の大幅カットはこたえました。それでもやるべきことに変わりはなく、無茶がでない年齢を自覚しつつ、歩みを続けます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。寒さはこれから。くれぐれもご自愛ください。

(香川県丸亀市 日野明世)

*

輝く年でありますように。長年のご活躍に頭がさがるおもいです。お元気で。

(東京都港区 平松昌子)

*

いつも姉(松井やより)のことを思っていたき感謝しています。

昨年、私は、「沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動」責任者として活動し、三月にはエクアドルでの米軍基地をなくす国際ネットワーク結成

に参加。九月二九日には、沖縄県民大会にも参加しました。十二月には、台湾と韓国で、日本・沖縄の米軍基地問題を宣伝しました。

昨年前半、安倍政権の改憲手続き法成立など「アメリカのための戦争をする国」作りが進行しましたが、後半は自公政権が参院選で多数を失い、インド洋から自衛隊が退去せざるを得なくなりました。また、沖縄戦での日本軍による強制集団死を否定する教科書検定撤回を要求する県民大会に、復帰後最多、県人口の一割近い十一万が結集しました。米「帝国」も、中南米をはじめ各地で反撃に直面しました。

私は、八月には、まる一か月「座骨神経痛」で入院加療しましたが、今はほとんど元気です。本年十月二十日まで、六十代最後の月日を、張り切って送っています。

草の根運動は、皆様の物心両面にわたるお支えによつて、粘り強く持ちこたえました。会員を始め、友人、知人の皆様に心から感謝いたします。

今年五月四日から六日に開かれる「9条世界会議」を是非とも成功させましょう。米軍基地をなくす草の根運動でも二人三人からサークル（つながり）を一つでも作りましょう。地方組織結成準備も始めましょう。

皆様の本年のご健康とご多幸を、衷心より祈念いたします。

（東京都渋谷区 平山基生）

*

お元気にお過ごしのことと存じます。お体を大切に、ますます輝いてご活躍下さいませ。

（東京都渋谷区 広瀬洋子）

*

明けましておめでとうございます。

今年もよろしく願います。

二〇〇八年を命とくらしを守る年にしましょう！

☆今年の目標です☆

1、衆議院選挙勝利！

2、党首三期目。力を合わせて元気な広がる党を作る。

3、民法改正、民法772条の改正の実現。

4、労働者派遣法の改正。

5、社会保障の立て直し。医療・介護・年金・障害者・生活保護。

6、障害者差別禁止法を作る。

7、六ヶ所再処理工場・高速増殖炉もんじゅ・柏崎刈羽原発を作動させない。

8、「もう一つの洞爺湖サミット宣言・社民党」を、いろんな人と作る。

9、産婦人科医の確保・助産師さんの活用。安心できるお産を！

10、クラスター爆弾、劣化ウラン弾の廃止。

11、在日米軍基地の強化をさせない。

12、食べ物の安全の確保、消費者の権利の確保。

13、捜査の可視化。代用監獄の廃止。

14、アジアのなかの人権問題の解決へ。

15、教育基本法を元に戻す。

16、映画・演劇・コンサートを、もつと見る。

17、中小企業支援策の充実。

18、若者と一緒に行く伊豆大島ツアーの成功。若者を育てる。

19、地方に行ったとき、地方の博物館、美術館へ行く。

20、ゆうゆうと、いつも笑顔で！

(東京 福島みずほ)

*

二〇〇八年、劇団息吹は創立50周年を迎えます。私は、昨年出版できました

た『長谷川テル』を戯曲化したいと願っています。盟友、澤田和子さんとの約束でした。ガンバリます。

今年もよろしくお願い致します。

アゴラの皆様、今年も、大変な一年でしょうが、どうぞ皆様が、健康に過ごoshiになりますよう、心より願っております。お体を大切に、いい年にしてください。

(大阪府八尾市 木田日登美)

*

昨年は久びさにお目にかかれて……。ますますのご活躍、ご発展を祈り上げます。

季節感のずれに、地球環境の変動を実感する日々、身近な社会状況もすさまじい勢いで変化しつつあるなか、パレアは設立一周年を迎えます。

皆様のご支援に応え、スタッフ一同、今年も、サービスと広報、コミュニケーション

ーションとは何かを常に考えながら、まい進してまいりたいと存じます。

皆様にとりまして、よい一年となりますようお祈り申し上げます。

(東京都小金井市

編集室パレア 保科朋子)

*

みなさま、本年もお元気に、ご活躍下さいますよう。

(千葉県御宿町 堀場清子)

*

昨年は大学で北欧について教えながら、大阪で不当解雇裁判にとりくみました。無念の敗訴でしたが、八十人の抗議デモに勇気づけられました。二〇〇八年は高裁です。

今年のお正月も母と過ごせて嬉しかったものの、敬愛する師、友人、連れ合いの母が逝去し、辛い一年でもありました。

みなさまのご健康をお祈りし、バー
ジニア・ウルフの言葉をお贈りします。
「あなたが亡くなったことによつて、
私たちは、生きることの大切さをさら
に思い知ることになる。」

今年もよろしく願ひします。

(東京都三鷹市 三井マリ子)

*

作業所の運営に明け暮れた一年でし
た。多くの人びとのご協力で、やっと
一年半過ぎました。今年はいよいよ地
域活動支援センターⅢ型として出発で
す。事業の中身は変わりませんが、今
までのような法外施設ではなくなります。

一年半、福祉に携わつてみての感想
は、市場主義とは無縁と考えられてい
た福祉の世界にも、合理化や効率化を
図れる部分があるということです。

障害を持つ人たちの能力をどう活か
していくのが課題ですが、そこにど

んな手法を採り入れていくのか、世の
中を見回しながら知恵を絞っています。
いい知恵をお持ちの方は、ご協力くだ
さい。

民主党はイマイチ信頼出来ないのが
残念です。(千葉県白井市 宮沢友子)

*

「女の暦2008」を拝見しました。

斎藤千代様の「行動する」生き方に深
い感銘を受けております。お身体ご大
切になさつて下さいませ。素敵なお写
真ですね。(茨城県神栖市 向山耶幸)

*

私が笑顔になれるのは、きっと、尊
敬する(あごろ)と、あなたのお陰で
す。ありがとうございます。本年もど
うぞよろしくおつきあい願ひします。

*

(福岡県福岡市 森崎民子)

おいでの時は、いつでも声をかけて下
さい。

今年もご活躍をお祈りしています。

(秋田県大館市 八代絃子)

*

あごろに、斎藤さんに、出会えたこ
とは、私の人生に大きな力を与えてく
ださいました。うれしく思つておりま
す。(愛知県名古屋市中区 柳澤つや子)

*

本年の「女の暦」に斎藤さんのご登
場。「やつといいカレンダー」と思っ
ばかりです。ご活躍を。

(神奈川県横浜市中区 山口美代子)

*

昨年四月の選挙では、皆様のご支援
のもとに十回目の当選を好成績で果た
すことができました。新宿を日本一の
自治体に！が私の願ひです。その為
に一層力を尽くします。

年金・医療・税制改悪で格差が拡大していますが、今年も働く人、社会的に弱い立場の人の気持ちを、大事に受け止め活動します。

(東京都新宿区 山田敏行)

*

昨年は予期せぬこともありましたが、新しい活動領域で、よい友人に恵まれました。今年は政権交代にむけ全力投球します。

(東京都武蔵野市 山本ひとみ)

*

新年に信念重ね空元氣——愚直庵
昨春の統一地方選で市議から県議に。心機一転、一三年目の議員活動をがんばっています。

昨夏、参議院選では東京で川田龍平君を当選させました。(みどりの政治)へ第一歩です。

(岡山県岡山市 横田悦子)

*

「市民の政府」が先に見えてきたような気がします。益々のご活躍を祈ります。

(東京都港区 若菜允子)

「グループ・団体から」

私たちは、昨年四五周年を迎えました。皆様方の暖かいご指導と、ご支援に感謝申し上げます。

私たちはこれからも憲法で保障されている人間の生きる権利、女性の人権を守るため、そして、差別と貧困、戦争と暴力のない、ジェンダー平等の社会をめざし、力を尽くしてまいります。

いっそうのお力添えをたまわりますよう、本年もよろしくお願いいたします。
(東京都文京区 ♀女性会議中央本部)

♀女のしんぶん(同)

*

旧年中は1フイート運動へのご指導、ご協力、まことにありがとうございます。

さて、1フイート運動は一九八三年十二月八日に発足、今年で二十五周年を迎えます。この間、子どもたちに沖縄戦の実相を伝えるため映像を取り寄せ上映してきました。今こそ1フイート運動の原点に立ち返り、県内外の皆さんと共に、文科省による教科書検定意見を撤回させなければなりません。戦争も基地もない平和な二十一世紀の共生世界をめざして前進したいと思えます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

(沖縄県那覇市 沖縄戦記録フィルム)

1フイート運動の会)

*

初春に凜と輝く朝陽のごとく反改憲の行くて照らそう

憲法施行六十年の昨年は、「改憲手続法」が制定され、反改憲運動に新たな飛躍を迫る年となりました。

「新たな生命の芽生え」や「はじまり」を表す「子」の今年は、津々浦々から反改憲のうねりが芽生えるよう、力を合わせて歩みましょう。今年もよろしくお願いします。

(東京都中野区 改憲とあらゆる戦争法に反対する市民ネットワーク21)

*

昨年四月の都知事選以降の大激動のもとでの、国民の声と行動で、政治を動かす新たな情勢が生まれてきています。

革新都政をつくる会は、憲法を都政にいかし、税金のムダづかいをやめて、くらし・福祉・教育最優先の都政をめざす立場から、吉田万三候補と「会」がかかげた三つの目標(①都政の私物化、税金のムダづかいを許さず、都民

の声が生きる都政に転換する ②大型開発中心の都政から、くらし・福祉優先の都政に転換する ③憲法否定の石原都政から、憲法を都政の中心にすえる都政に転換する)で、都民との共同を広げ、さらに奮闘する決意です。

皆様方の運動の発展とご健康を祈念して、新年のご挨拶といたします。

*

(東京都豊島区 革新都政をつくる会)

戦争放棄の九条の意義を広く訴え、平和のための連帯をつくるため努力します。

本年もよろしく願いいたします。

(東京都品川区

憲法9条―世界へ未来へ連絡会)

*

旧年中はたいへんお世話になりました。皆様の変わらぬご支援のおかげをもちまして、充実した一年でありましたこ

とをあらためて感謝いたしております。ほんとうにありがとうございます。

皆様が、「なかなか時間がないけれどなんとかやりくりしてこまつ座を親に行きたい」と感じてくださるような芝居を、丁寧につけてゆきたいと思っております。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。この一年の皆様のご健康とご多幸を心より祈りいたしております。

(東京都台東区 こまつ座)

*

地球温暖化でびわ湖 SOS!

随分じっくりびわ湖に向き合ってきたつもりでした。ひとたび壊してしまつた環境の再生には、とてつもないパワーが必要です。何とか「碧いびわ湖をこどもの未来に」と願っています。

(滋賀県環境生活協同組合 藤井絢子)

*

今年も、誰もが安心してくらせる安

全な地域社会づくりに邁進してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(東京都渋谷区

全国地域婦人団体連絡協議会)

*

反弾圧！ 二〇〇八ＪＲ春闘勝利！

平和、人権・民主主義、

鉄道の安全と労働条件を守り、

労働者のグローバルな連帯を訴え、

今年も闘いを進めます。

(東京都品川区 ＪＲ総連)

*

平素から当会館の事業運営に御指導、

御協力を賜り、まことに ありがとうございます。

でございます。

昨年は皆様のおかげをもちまして、

開館三〇周年記念事業という節目の事業を、盛況のうちに終えることができました。

ました。熱く御礼申し上げます。

本年も男女共同参画社会の形成を目指し、より充実した事業に取り組んで参りたいと存じますので、一層の御支援をよろしくお願い申し上げます。

(埼玉県比企郡

N W E C (ヌエック) 国立女性教育会館)

*

昨年はお世話になりました。

格差と貧困の拡大・国民いじめ、ア

メリカの戦争応援の政治はごめんです

——そんな国民の声が国政や地方政治

を動かしています。消費税増税、自衛

隊の海外派兵をゆるさず、暮らしを守

り、憲法９条を守る運動の前進めざし

て奮闘します。国際的にもあまりに遅

れた女性の地位の改善のために、いっ

そう力をつくす決意です。

ことしよろしくお願いいたします。

(東京都渋谷区 日本共産党女性委員会)

*

生命(いのち)を生み出す母親は

生命を育て

生命を守ることをのぞみます

全国の母親、女性たちの五三年のあ

ゆみを支え、励ましつづけてきたこの

スローガンが、日常の暮らしや、社会

の「当たり前」となることを願って、

みなさんとともに、その共同の輪を広

げるためにがんばりたいと思います。

本年もよろしく願っています。

(東京都千代田区 日本母親大会連絡会)

*

日本でも世界でも、政治を動かすの

は私たち、という手ごたえを感じる年

明けです。

昨年ひらかれた国際民婦連第14回大

会のスローガンは「テロも戦争もノー、

平等・平和・公正な世界」。「核兵器廃絶」

「軍事費削って暮らし・福祉にまわせ」

の運動が、地球規模で展開されています。

婦団連は今年創立55周年、「婦人通信」は6月号で通巻600号となります。

「平和を願う女性の力を一つに」の初心を忘れず、憲法9条を守り、男女平等・女性の地位向上をめざす共同・連帯を強めていきたいと存じます。

日頃のご厚情に改めて感謝いたしますと共に、かわらぬ御支援をお願い申し上げます。

(東京都渋谷区 日本婦人団体連合会)

*

昨年中は、ひとかたならぬご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

おかげさまをもちまして、昨夏の参議院選挙では目標であった与野党逆転を果たし、参議院第一党に押し上げていただきました。その重責をあらためて噛みしめ、ご支持いただいた多くの皆さまのご期待に応えるよう、全力を

挙げてまいります。

本年は、早々の解散・総選挙も取り沙汰される情勢です。民主党は、参議院選挙で国民の皆さまにお約束した「国民の生活が第一」を実現するため、いっつ総選挙が行われようと、全力で勝利を勝ち取り、政権交代を果たす決意です。今年一年の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、民主党へのさらなるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(東京都民主党男女共同参画推進本部)

*

昨年は、参議院で与野党逆転。ようやく光がさしてきました。今年は、衆議院を解散・総選挙に追い込み、「市民の政府」を誕生させたいものです。今年も元気でいっそうの連帯を！

(あこら)

*

お陰様で私どもも創業四十八年目を迎えることができました。

あたたかなご支援をいただきましたおかげと、感謝の思いでいっぱいでございます。

今年も、地道に、誠実に、仕事を続けたいと願っております。よろしくお導きください。

(BOC)

*

今年も、たくさんのお年賀状を、ありがとうございます。

会員の皆様に見ていただいた、すばらしいお年賀状ばかりですので、掲載のご諒解をいただきました分を、ご披露させていただきます。

昨年は三十五周年記念文集を発行の予定が今年にズレこみました。今年はそれを発行し、一泊旅行を、と計画中です。アイデアをお待ちしています。

(あこら事務局)

〔315号〕

315号座談会、最近の選挙や政治のあり方を、市民として、政党へ、どう働きかけていくべきか、共感するところ多く、参考になりました。

(富士市 竹内和恵)

*

貴誌「あいら」を通しての諸活動に感謝と尊敬。ご努力に言葉もないほどありがたいと思っております。

去る一月二四日の集会の際には、

絶大な御支援をいただき、物心両面の激励に心より感謝いたしております。

先日はあいら315号新宿発に、私どもの「おやすみなさい 柏崎刈羽原発」柏崎刈羽から東京の皆さんへを掲載し

ていただき、掲載誌をお届けいただき恐縮いたしております。ありがとうございます。

315号については、仲間と読ませていただいたり、内容について語らせていただく機会を得ましたこと、政治に対して微力な一市民として元気をいただきました。

あいら編集部のみますのご活躍、ご発展を願い、取り急ぎお礼いたします。

(新潟 桑山史子)

*

発行のご努力に心が痛みます。定期発行にこだわらなくても、続けられるよう折っております。

(東京 坂井桂子)

*

真摯なご活動に敬意と感謝を贈ります。315号、座談会と上原ひろ子さんのインタビュー、とてもよかったです。生きた言葉、生きた会話が続き、人間に、じかに触れられるような新鮮さがありました。皆様、いつもよいお年でありますようにお祈りしております。

(茨城 中沢玲子)

〔近況報告〕

私は柳谷あき子さんを応援します。

私の住む藤沢の町の片すみから見てみると、中央の政治も地方のそれも、そして、なにより自分の身のまわりが、どんどんひどくなっていくのを感じます。同じように腹立たしい思いをしている人の数は日増しに増えています。

長年にわたる男主体の政治は、金属疲労を起こしています。男たちは政治への純粹な情熱も知恵も能力も底をついています。政治家としての使命感を、いま、わたしたちは、どこに見出すことができるでしょう。

このあたりで思い切つてあたらしい転換をはからなければ、私たちの未来はないのです。いまこそ、女の目、女の手、女の知恵と勇気を、存分に役立てる時がきました。女はいのちについて、日目の暮らしについて、男とはちがつた視点からものごとを視ています。この視点を中心に、あらためて社会を、政治を、みなおせば、かならず違つた展望がひらけるはずです。

このたび、市長選挙に、柳谷あき子さんが立候補を表明されました。柳谷さんは無党派の市議会議員として、三期一二年の経験をもち、その後は、障

害者福祉の現場での保育士としての実体験から、福祉型社会について、市民自治について、借り物ではない自分の言葉で話し、実行する心優しい行動派です。柳谷さんも私たちも、志を同じくする男たちとは、よろこんで共に働くことは、申すまでもありません。

みなさま、柳谷さんをよろしく応援してください。(神奈川 浮田久子)

*

今般、斎賀富美子さんの後任として国連女性差別撤廃委員(CEDAW)に就任し、一月二八日にジュネーブで

委員就任宣誓式に出席してきました。日本から五人目のCEDAW委員。初

めての「民間からの任命」となりました。自分に与えられた役割をよく考え

発言していきたいと思ひますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申

し上げます。(東京 林 陽子)

*

今年もよろしく願ひします。今日は雪がつもり、真つ白な山の風景に見とれています。自然の美しさは、いいですね。心が洗われて元氣をいただけます。(岡山 伊東朋子)

*

二月二四日の国技館五〇〇〇人の第九コンサートに参加します。連帯の「歓喜」と、励まされ続けている「あこら」への思いをこめて歌つてきます。

(東京 石井明子)

*

都城市図書館に、長谷川テル「せせらぎ出版」の本が発行すぐに置かれ、私も読みました。一九九九年二月に、大阪でアレネルソンさんの集会(9条連近畿主催)での澤田和子さんの力が忘れられません。(宮崎 二宮義広)

*

【お詫びと訂正】

315号に誤植がありました。お詫びして訂正させていただきます。

46ページ 上段3行目

「国を二分された朝鮮半島の苦しみを、歴史的に、冷静にみつめなければなりません。」を、52ページ上段10行目、「情けないですね。」の後に移す。

61ページ 上段11行目

「政治と市民」↓「政党と市民」に訂正。

136ページ 下段2行目

「出会ったようなつかしき哺哺木の」↓「出会ったようなつかしさ——木の」に訂正。

136ページ 下段13行目

「グライダー」↓「グラインダー」に訂正。

139ページ 下段13行目

「四〇〇〇円のカンパ」↓「四万円のカンパ」に訂正。

【編集後記】

◆「新年早々に」と意気込んでいたこの号が、またも遅れました。

「あごろ」の資金が底をつき、事務所も移転を迫られ、最悪の新年。おちつかないなかでの、見苦しい編集をお詫びします。

(編集部一同)

◆おカネも人手も、ここまで窮乏すると、デーンと腹が座ってくる。まあ、あとは何とかなるでしょう。(太腹女) ◆自・公両党は、自衛隊の海外派遣を随時可能にするための恒久法を今国会会期中にも提出するらしい。

その恒久法は自衛隊の海外活動に治安維持任務を加え、攻撃された他国軍

のもとに赴き、武器で応戦する「押しかけ参戦」を認める方針だという。

「自衛隊の武力行使は、憲法上、正当防衛、緊急避難に限定される」というのがこれまでの政府見解であり、新法で「押しかけ参戦」が盛り込まれたら、憲法がふみにじられてしまう。

イージス艦「あたご」の事故で明らかになったように、自衛隊の文民統制違反を追認するような恒久法を決して制定させてはならない。

(光)

◆次号は、米兵の少女暴行に怒る沖縄からの発信。桑江テル子さんが、ご病後のおからだで、中心になって編集してくださいませ。「ヤマトからの思い」も、ぜひご投稿を！

(千)

【三二六号の編集協力者】

萩原有希／小俣光子／黒澤照代／
斎藤千代／斎藤 涼／林 克明

〈あごら〉は、人と人が出会うひろば――

思い悩んだとき、もっと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……

心おきなく話し合える仲間がいる。――そんなひろばが、北海道から沖縄まで、いつのまにか広がりました。

雑誌「あごら」を軸に、よりよい自分と社会を目指すゆるやかな連帯。

どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――

「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

ハガキ・FAX・メール・電話でお申し込みください。

〈BOC〉のご登録もぜひ……

一九六〇年に生まれた〈BOCバンク・オブ・クリエイティビティ〉は、〈創造力の銀行〉。あなたの創造力や特技、希望の報酬をご登録ください。各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな〈創造力〉でも歓迎！ ただし、半年以上〈あごら〉会員の方に限ります。

連絡先

〒160-0022 東京都新宿区新宿 一―九―四 中公ビル

電話 03-3354-3941 (代表) FAX 03-3354-9014

Eメール XLV05467@nifty.com #またはboc@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/agora1/>

あごら 316号 (1・2月合併号) この日本のゆくえは

●編集 あごら新宿 ●発行 2008年2月20日 ●印刷 藤田印刷(株)

●発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル3F

●TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.com

●定価 本体1,000円+税 ●振替 00100-0-5264 BOCあごら編集部



9784893061713



1920036010004

ISBN978-4-89306-171-3

C0036 ¥1000E

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体1,000円+税

2008年も〈あごら〉をよろしく

平等と平和を追求する
『あごら』近刊シリーズ

沖縄米軍暴行に怒る

あごら三十五年に想う

あごら101〜2000号一覧

企画・編集・翻訳…

何でもご相談ください

創業1960年 —

女性専門職集団

BOC

各種プランニング

各種調査

取材・撮影・編集

校正・デザイン・レイアウト

各国語翻訳その他

男女共同参画の

BOCシニアも

スタートしました。

ベテランの知恵と経験を

お役立てください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354・3941 FAX3354・9014

E-mail XLV05467@nifty.com

サイレントマイノリティのBOC出版